新和歌類句集 第二句

古代集

俊生登

特別
イ4
3163
22(2)

貴
14
3163
22(2)

新和歌類句集

は

風雅上
新後撰
雅下

いつまでか　こゝの下なる　つゝみ　ゆ　ゆ　ゆ

風雅上
同
新後撰上
新後撰雜下
新千
新後撰釋教
風雅雜中
新拾上
風
新拾
新後撰雜上

神垣に
九めぐり
覽まと
なれなり
九めぐり
なれなり
なれなり
なれな

新拾遺 雅経
大井川
さく桜
風 雅下
咲初く
風 雅上
いくしの
新千 雅下
わらひ
風 雅上
新拾遺 雅上
うへとさ
風 雅下
散て程
同 雅下
年おとる
同 雅上
白い衣
同 雅中
大井川
新拾遺 友
忘れぬ
同 雅上
こと浦

行律師 拾遺
華厳の
花
行大納言 五雲
後宇多院 御製
流れ製
参議雅経
後九条院 歌
前大納言 公任
康資王母
前大納言 為忠
九条内大臣 基氏
行信卿 雅下

新拾遺 雅上
又ときも
同 霊源
新千 釋教
ときを
風 賀
あしの
新拾遺 賀
世に
同 大友
新千 参議
神ぬし
新拾遺 雅下
つるの
新千 雅下
いくしの
新拾遺 雅下
大うこれ
新拾遺 雅下
大うこれ
風 雅上
うゑ毎よ

性蔵法師
大乗の有り
頼長三位 為子
法皇朝光
祭主輔親
京院常内 大光
上西門院 紫
平経朝光
皇太后宮 安後
前中納言 有忠
後鳥羽院 御製
法系元輔

彩子 ちゝ下
彩扶 友
彩子 親上
彩続 離別
彩子 ちゝ下
同 ちゝ上
彩続 ちゝ下
同 ちゝ下
風 ちゝ下
彩続 親下親語
風 親下
彩扶 汁祇

いつしかの　ちゝ親といつこはかりなるふん　ちゝ人ふる
何となく　ちゝ親ちゝ嘉ちゝ　ちゝ親ちゝ　ちゝ親ちゝ　ちゝ親

新後拾遺 坂
新拾遺 雅経
新後拾遺 雅経
新千 雅上
風 雅上
同 雅上
新拾 ちか上
風 ちか上
新拾 ちか上
新千 ちか上
風 ちか上
新拾 ちか上

墨ようぬ　ちの花と知りなは宿を借てきめうらいと　前中納言定家
をそ梅　ちる雪て咲れるれいの花もしか　法華寺関白
こしか　ちるやむしろ所の月我身いにはの歳月を　源俊信
めくりあふ　ちるやむしろ所のこの月と月にたとへし雲隠軸　白河法師
かくそは　ちる物は涙よりはれしこの人方しなれ我身ふ　大蔵卿行宗
ちるはも　ちる花ちるもてくてたちてたちなん　前大納言
ぬるうく　ちるうく春の酒ちてしてしてしてきゆる泡はたちぬ　藤原隆信卿
打なびき　ちるうくとしたれ藤の花にはあはれふれく　坂上明清
打なびき　ちるうくとしたれのよこうてちうちまの柳の糸　前大納言
いとうやし　ちる春はしたのあうてをしたれ歳ちるい　坂上定成
ちて海の　ちる川水はこたらり宿ていくのうれの白を　源俊頼朝臣
かをうち　ちるれはよりの白雪の宿ていはこたちまの川てん　前大納言
入ぬ　ちるもつ物と深心ふいてて谷はちる　法華寺関白
つれは　ちる日は海ふをちふの歳ちりちる人　坂上
新代ぬ　ちる日とけふはちてとたれはうくに花やちん　坂上
花を　ちるもうるはしたりはちるちるみちはは　坂上信
さしは　ちるもうるぬ山里は人めをうくく花をもうて　中文
おりをを　ちるも若ぬもちてふんをの歳の神はおる　前大納言
もえ出る　ちるし濃紅のの葉に頃しちてを紅の乃し　大江朱雀
しれしう　ちるをてをきあ一時乃ちうく入はをてをる　藤原雅親
略のさし　ちるをしをくぬはうれ刈田の面ぬ雪やをちん　中文
器作人　ちるはをはをちて月しを陸め梅風て夜　前信
玉さしは　ちるはをはをきしめくをふとをてい人やを　入道宗親
物うして　ちるはくきは風の八三水はとをとさ雨しうふ　前大納言

新千 雅下
新拾 恋二
新千 雅上
新後拾 恋二
新千 恋六
新続古 哀傷
風 雅下
同 冬
新拾 哀傷
新拾 雅下
風 雅上
同 雅下

さくら花
ちりかひくもりなくて人の心のあらしにたえぬ
なりけり　生年未考
たちもとの
ちりてのこれるさくらの花のしたにて
　　信下定通
うぐひすの
なくこゑにまがへて月にえんなりけり
　　東撰常
　　雪家歌
ちとせ
なくこゑにまがへてうめにまつもかをるなり
　　ちとせ　宗
あいにくを
ちるかぜにまがへてそゑ遠にれわたるもの
　　拾大納言
　　宗憲
帯の
ちるかぜにまがへてえんなりん
　　或人歌者
　　親王
うぐひす
ちるかぜにまがへてはなのさけるをも
　　後撰雅拾
　　前大納言
　　宗憲
　　雅拾
　　宗憲
　　雅拾
　　宗憲
　　雅拾

風 友
新續古上
新千古上
新拾 恵一
新續古 友
新拾 恵一
円 恵三
円 友
新千 友
新續古 恵二
新千 恵二
風 雅中

月前霧

霧ふかき月の影よりあやなく袖のぬれまさるかな　法下定為

いく秋もかはらぬ月の光をうつす水の面の霧の下露　法下太政大臣

さかぬ花の色をうつす柳の糸の露の玉ぬき　今出家 大臣

月前霧

霧の晴れぬ深の下露をてりうつすかの月の光　前大納言 俊健

霧ふかき夜の月の光をうつす若めの袖の露の玉ぬき　新拾 仁王

心なき月の光をうつすかの露の玉ぬき　法二信 新拾

霧の晴れぬ月の光をうつすかの露の玉ぬき　円 恵三

見るとかの露の玉ぬき　円 友

霧の晴れぬ月の光をうつすかの露の玉ぬき　後鳥羽院 四製

霧の晴れぬ月の光をうつすかの露の玉ぬき　新千 友

霧の晴れぬ月の光をうつすかの露の玉ぬき　新續古 恵二

心なき月の光をうつすかの露の玉ぬき　前右大臣 雅有

いつしかと霧の晴れぬ月の光をうつすかの露の玉ぬき　新千 恵二

霧の晴れぬ月の光をうつすかの露の玉ぬき　法二信 新拾

あさみどりの霧の晴れぬ月の光をうつすかの露の玉ぬき　太政大臣 四号

風 恵二
新拾 恵下

我宿の霧の晴れぬ月の光をうつすかの露の玉ぬき　後醍醐院 四号

霧の晴れぬ月の光をうつすかの露の玉ぬき　新千 恵上

霧の晴れぬ月の光をうつすかの露の玉ぬき　新拾 恵上

霧の晴れぬ月の光をうつすかの露の玉ぬき　風 雅中

霧の晴れぬ月の光をうつすかの露の玉ぬき　新拾 恵二

霧の晴れぬ月の光をうつすかの露の玉ぬき　風 雅中

霧の晴れぬ月の光をうつすかの露の玉ぬき　前大納言 為氏

霧の晴れぬ月の光をうつすかの露の玉ぬき　円 雅下

霧の晴れぬ月の光をうつすかの露の玉ぬき　円 雅上

霧の晴れぬ月の光をうつすかの露の玉ぬき　新千 雅上

霧の晴れぬ月の光をうつすかの露の玉ぬき　新拾 恵下

新続古 雑下
風 雑下
新拾 雑下
新千 雑上
風 雑下
新続古 雑下
新千 恋四
新続古 雑下
新拾 雑下
同 雑下
新後拾 雑春
新千 雑上

みち雪
かつ乃
藤ふ
咲そむる
末とと
春もとと
梅ゝ乃
まんと
うやし
ふりも
ゝりし
ゝとの

れ雪も
ゝか生て
ゝる衣
ゝかぶ
ゝかさ
ゝか梅
ゝか久
ゝか風
ゝか殺
ゝか雪
ゝか雪
ゝか雪

新千 三下
新續 三下
新續 撰歌
風 新上
新續 三上
新拾 雜賀
新千 新上
新續 三下
新拾 三下
新拾 霧旅
新續 妹上
同 三下

咲ちらす　まがきの山の　春の風
みるかの人　まがきの梅の　春の宿
春はあけぬ　ふるさとの　春の夜
まがきの梅の　春の風
咲やらぬ　山のうぐひす　なのめなる
ごとくなれ　ちるをけふ　わかれぬる
ちるを風　しるべとふく　ものかな
ちれるこそ　ちるを見てこそ　言しかの
ちるもまた　本のもとの　梅花
やこよひ　ちるを惜　ぬる春の
妹が家の　ちるけふ　衣やこよひ
ちるとこそ　言ふなれ　人のこゑ

第中納言 雅孝
惟明親王
今宮一品 親王 貞康
後京極 摂政 太政大
第摂政 太政大
太上天皇
冊後鳥羽 院
行恒
後京極 摂政 太政大
九条
二条院 三位中将 信
後二位 藤原

新千 冬
新拾 新上
風 三下
新千 妹上
風 三下
新千 三上
新拾 新上
新續 三下
新拾 夏
新拾 新夏
新拾 新冬
新千 夏

なつかしく　夜ふけぬ　物とこそ　ながめ
神ぬしの　ながめ　又ながめ　ながめ
月の光の　ながめ　風の音　ながめ
立ちぬ　ながめ　風吹　上ぬ　ながめ
ながめ　ながめ　ながめ　ながめ
ながめ　ながめ　ながめ　ながめ
ながめ　ながめ　ながめ

新続古今
たきつ風
匂いかに
我宿の
石河屋
沖津つ
ここ夏は
時雨れ
妹が家に
ちり曲ふ
あるとみる

新後拾遺
新拾遺
同
風
新子
同
同
同
風
新上
新続拾遺
風
新拾遺
新拾遺

梅の花を
梅の花
梅の花
梅の花

風雪
彩子 寄下
風 題一
同 新上
彩繪 妹上
風 寄下
彩子 稼友
彩妹 妹上
彩繪 妹上
風 寄下
彩子 友
同 新上

国まもる　まかりの原さ　まもる夜の窓よりて　ゆき今宵　月
とをりハ　まかりたりさ人　まもるとあれハ　ゆきいぬ　殿宮門院　永福門院大輔
ゆきて　まかりたりとみえ　まもる　ゆきいぬ　ものと　夏こそ
ゆきて　まかりえんもたつ　ゆきてふ　初ねてこそ　ゆき　芝蘭院聖
妹乃野　まかりの　ゆきて　ゆきけ　ゆきの　ゆきけ　白玉　桜宗後　入道
ゆきて　まかりの　ゆきて　ゆきて　ゆきて　ゆきて　ゆきの　ゆき　ゆき　ゆき

風 三下
新後撰 三下
同 新古
新千 新中
新續 三下
新千 三下
同 新上
新續 離分
風 新上
新後撰 三下
新後拾 三二
新續 新上

山あきの
をとこの
ふるさと
一とせの
こえわれや
本郭うり
清てれ
うをとこ
山ふきに
菖蒲山
いよして
女良花

ちかひ井のうやうちし立と泊る　中務
かかるみさうわやみかれは苔むす水はて波　後京極摂政 羽長
ふるさとしるめてしりてはをまちけり金　深草の上人
あなのしやまちあ外なる苔の松本　前内大臣
こえりれ
ちかはいわやさ宗の庭よそ梅花なつ　左大臣
本郭うり
ちかの音のちりうはいとりうやを　後人の家
ちかの音踏羽ア生はれりのまちあ変　前右兵衛督 為家
清てれ
ちかあ教へしりあはは恋しうか　前大納言 資名
うをとこ
ちかのちてこうれたまちぶこまるれのそれ　前参議 為氏
山ふきに
ちかのちあ日教へく白そふうき神のまに　久我太政大臣
菖蒲山
ちかのちはいしてけまちんへはちをしみこに　基俊
いよして
ちかのちはいし打うけて訪とはの野へよ泊ん　後京極摂政
女良花

新後撰 三下
同 三下
同 雑上
風 三下
新千 三上
新後撰 三上
風 新下
同 冬
新後撰 三上
新千 三上
新後撰 新上
新続後撰 雑上
風 友

次ちかる
菊つちう
羽衣ける
ちかれこか
ちとは
なふなく
情こう
ぬやめ
ちかれ
ちかの
ちかの
ちかの

新拾 ちかの下
心あてに
折しらばや井の
水

新拾 秋下
春の来
ける初しも

新千 ちかの下
風雲は
いやうへをさしてはるる

新続拾 神祇
文ぢ今
年

新続拾 賀
千年
ぞ

風 賀
君が
代

新続古 冬
ごとの
ふる

新千 雜上
こもれる心
は

新拾 雜ちか
心は
ぬし

新千 雜上
時ぞ
は

新拾 恋賀
風 ちかの下
易

赤光院 常宣 ちかの下
ちかの
ふる

平貞文
校少将那 忠有
赤染常宣 ちかの下
法橋 雜上

校大納言 忠光
祝部行親
後京極 忠定

詳子 内親王
後鳥羽院 ちかの下
平忠盛 ちかの下

新拾 ちかの下
本末は
ちかの

新千 ちかの下
もしかも
ちかの

風 ちかの下
いまも
ちかの

新続古 天敬
かぬつか
ちかの

風 雜中
時有
ちかの

新続古 雜上
林萩の
ちかの

新拾 雜上
月まれ
ちかの

新千 雜上
深草原
ちかの

新千 恋ち
いくたび
ちかの

風 冬
雪ゆえ
ちかの

新拾 冬
野の
ちかの

新続古 冬
笑ふ
ちかの

順徳院 ちかの下
後二条師通
後伏見院 ちかの下
第六天
後二条師通
第五代
後伏見院 ちかの下
第五代
後二条師通
後嵯峨院 ちかの下
源基綱
後二条師通
後嵯峨院 ちかの下
後二条師通
第五代

新撰
妹上
冬

秋風乃
吹しまくてし
吹乃尾上に出る月を
見るとや
夜半に
鳴
ふ
鹿
の
聲
を
聞
て
水
の
ほ
と
り
に
ま
ち
明
し
た
る
人
の
ま
ち
明
し
た
る
人
の
ま
ち
明
し
た
る
人
の

新千 恋五
同 雜下
新拾 雜秋
風 雜下
同 賀
新拾 雜賀
新続古 賀
新拾 雜上
新千 冬
新拾 神祇
新千 雜上
新拾 羇旅
新千 雜上

いの山の
古歌の
心枝を
新しき
大江殿
無しとも
住の江の
次上の
無の月風
あ秋の
ふる松
三笠山南
や

わせもむふつかよりこいをとなめ
ものはよまみてく花と宮こすきて
わを涼しくめ水や成て夏なる
ゆ花の梅の四月なる一むしくもり
ゆの高砂を春の代に数よりれ
無しとも
ゆの高砂やまとしたれ
ゆの高砂を春ふりて巖となん
ゆの高砂の塩風よ行れ
ゆ松えよりけて
ゆ松えよ吹風ら
ゆ松えれ宮柱
ゆ松えれまの
ゆ松えれまの

右未の時
拾遺今院
冥白太政下
陽子内親
忠宰相
大江広秀
後朱雀
後光明
後光明
後光明

風雅 拾下

度の面よ
りこの
ゆるれば
ゆるるは
さこそ我
古跡川

新拾 雜下

きさあ

新後古 夏

あらの
れい

風雅 拾上

はるる

新拾 恋三

風雅 拾下

風 恋一

新後古 恋一

新拾 夏

冷しき久れの夏
ゆるるは
ゆるるは
ゆるるは

新和歌集目録

に

清水せ　　夏の夜の月

夏の夜は明るかと思へば明やらぬ月の宮こ成らん　　藤原為家

夏の夜は明しみてわびしきに月の宿るか明ぬる　　藤原為家

夏の夜の明ぬる

風を

新後撰三二

新拾遺

新拾遺

新後撰

風

新後撰

新拾遺

新後撰

風

新後撰

新後撰

風

新後撰

新後撰

風

新後撰

詞書仮上
詞書本下
詞書本上
風三文
詞書三一
詞書三一
詞書三一
詞書雜上
詞書三二
詞書雜中
詞書非成
詞書仮上
風雜中

め帰れ
ふるさを神しらてあやなく人や秋をかな　哭し
九重ノ
ふるさを忘れぬ色のこゝろ哉　怪三位為
神しらの
ふるのの下道ふる行の松のちれ　等松院
あさの
ふるのこゝろもしらぬ秋のわ　設家卿
ちをいや
ちをいやなこゝろをいとせうとて世ふる　為房卿仲
もし焼
ちをさしてあ[illegible]をとゝて　伊勢国
ぬ
ちはのをさこゝろてあるゝ川の秋や　三位為
いとしさん
みぬの川原ふるしこゝろあるさい　源重家
行上
ふる北人いせよりみしてれをし秋の夢を　右衛門
さのこゝ
みるこゝをたはを水さふなれ人あるこゝ　恒仲
いかれ生
ふしぬ月秋のこゝ[illegible]に出てふる　伊勢
いたわ山
みちを月の成めふる秋のふりの宮のこゝ　怪三位
秋成

詞書雜上
詞書仮下

ふるを
みちを山をしてをふしめをこゝ月りをや　入道前
をを秋を
みをこゝ秋を風山をいかをさをのこゝ　北条時

新和歌類句集

か

なくしほとゝぎす　五月雨の夜　新拾遺　三文

なくいのりぬ住ふこれをうへの道をゆくしう　平兵衛　知卡

なくゝゝとゝぎす　新拾遺上　おもふ日　近市

うとゝゝとゝぎす　新拾遺　三一

ゆくゝゝとゝぎす　同　秋上　協と　そ幻

いくゝゝとゝぎす　風　雜下　赤堤　陽つ

ほとゝゝとゝぎす　新拾遺　三二　指律師　秀雅

なくゝゝとゝぎす　新拾遺　三三　三つ江　必雲

ゆくゝゝとゝぎす　新拾遺　三三　紀り水

ほとゝゝとゝぎす　新拾遺　三四　はか　經深

なくゝゝとゝぎす　風　三二　指命　三宗毎

新拾遺　冬　指命　土元

新拾遺　雜下　芦命　放良

新拾遺　冬　なかゝゝとゝぎす　指命　土元

ほとゝゝとゝぎす　新拾遺　雜下　芦命　放良

ほとゝゝとゝぎす　新拾遺　三一　なかゝゝとゝぎす　指命　土元

ほとゝゝとゝぎす　同　秋上　ほとゝゝとゝぎす　赤堤　上人

ほとゝゝとゝぎす　風　雜中　ほとゝゝとゝぎす　傳教　記教

ほとゝゝとゝぎす　新拾遺　雜中　ほとゝゝとゝぎす　指命　上人

ほとゝゝとゝぎす　新拾遺　三一　ほとゝゝとゝぎす　芦周院　必雲

ほとゝゝとゝぎす　新拾遺　雜上　ほとゝゝとゝぎす　指命　乃雲

ほとゝゝとゝぎす　新拾遺　秋上　ほとゝゝとゝぎす　經信　乃雲

ほとゝゝとゝぎす　風　雜中　ほとゝゝとゝぎす　源氏　乃雲

ほとゝゝとゝぎす　新拾遺　雜中　ほとゝゝとゝぎす　指命　土元

ほとゝゝとゝぎす　新拾遺　三一　ほとゝゝとゝぎす　指命　土元

新後下 文

ぶ
ぶ
ぶ

風 秋上 新古今 秋上

[illegible]

[illegible]

新行歌類句集

一

新拾 三ノ一

あはれてもいかなるなとかしくしけるそめうん

新後千 三ノ一

いかさらて

いつる中と成しそわ[illegible]

新古 三ノ二

なこりさ人

いつる中乃伊や[illegible]

同 三ノ二

いつるせ山

いつるてやけ[illegible]

風 雜中

[illegible]

いつる山乃やあ[illegible]

新後千 雜下

[illegible]

いつる[illegible]

新拾 雜中

いく世し

いつそ世ぬを住山のふりし[illegible]

新古 三ノ二

あ[illegible]

いつそ世ぬを[illegible]

新拾 雜後

あ[illegible]

いつそ[illegible]

新古 三ノ二

[illegible]

いつそ中をいつ[illegible]

新拾歌類句集

ご

昌行わ　はくらや雪のさわくいふたうてもあやさうと　前大僧正道玄
詠くよく　はくて春へんわるしはみるうの雪のうつろふを　出羽守時
かけはの　うはりあれいうに人のあるとけるくこころうを　順徳院小倉
そうの　そけのの古堂遊るうしゆの野ふいけうの川新　小倉百人
　　やまと　はくあいさうわやまと山をはかりいやうん　小倉百人
　　あれた人　はくあ弱をと雪れうよわ上の夜乃行えを　信実朝臣小倉
　　つうう人の　ごとわうもむ行ようこうこ六里に夜うつせ　為家卿小倉
　　歌さと　ごとわつさはてうとと嫌うこはけりとすす　為家卿
　　なうて　ごとうてこいあるうや人乃住しいのうかりうわ　三条内大臣
　　ちてを　どはうあをうてうなうあ立の嫌かりれ　信濃前司行覚

新拾遺　前大僧正隆親
前大僧正道玄
出羽守時
順徳院小倉
小倉百人
信実朝臣小倉
為家卿小倉
三条内大臣
信濃前司行覚

風立一　さそそ　はくたれるとそみつうこ　ささうの雪のはくふ行ゆう　前大僧正実四郎
　　詠てて　はくるわ夜を雪をふうてうるう有を初ん　実家
　　ちくい　はくれわ雪の朴四をさけうるうてうくうん　前大僧正
　　詠こて　はくふれ有の陽第ちはくうつ雪のうの立　前大僧正
　　けとれし　ごとれあるこいうるはのいうさ　久我内大臣
　　と雪れ　はくあうや月をうてかう上のうこ上うくい　定地
　　ちうて　ごとれううう山をと雪れうをれて行りいう　定地
　　ちれを　ごとれ雪て詠こて雪しくれ雪見そ以　頓行
　　里いあて　ごとれ神のえうるし秋けり雪らうる秋のりあ　四条隆親
　　ちてこを　はくて心ゆるこ情のこいてはうん雪の通行　前中納言資平
　　人いなと　ごとてをうん風ちうう新雪とこ雪のさうと　前中納言為秀
　　立えり　えいはくれあるてこりえれいて交神ゆうを　権大納言資茂

風立一　新拾遺　新拾遺抄　新後撰　立三　新後撰　詠下　風立三　新後撰　三三　風立三　風詠下　新後撰　詠上　新後撰　秋上　新拾遺　立心　新後撰　詠下　同詠下

新古今傷

なるこゝの
あまこの
形みて
いかるし
白島の
あるこよ
梯を
けさし化
秋の夜れ
ねわよの
然しを
つわし

新拾
新後
三文

新拾
新後
三文

新拾
新下

新拾
秋下

新後式
女雜上

新後
文

新拾
三心

新後
文

同
雜下

新拾
三心

やくさの者の下わしうる秋を作やなくう
やくうらの小のうにつくわ雪ゆ浮をそ
ごうしをあ伸をわをれいてゝ立いるのさ
うせいつわの者ゆしと伸ちうう用小出てう
ごをのかなこゝてうう居宅をゆ仕のうを
ごをのゆ面の麻のをうう送る秋乃やん
うしり一三神山乃道を言やうかれん
ういをいをかうりしくうい人のつをゆし
うれけりねこうのるてをくそし夢を結う
あれ弟ををたうてれをしあるゆをる
然しを
つわし

前長
中間入道
前太政大臣
男敦
妻
敦尹
成風
前中納言
宗家
持方
侍従
女房
北小路殿
宗
大江宗秀
牧宣

新拾
三心

同
立三

同
源氏

新後
源氏

同

同
夕

同
風
雜下

新拾
雜下

同
風
雜中

風
神祇

新拾
三心

風
雜中

同
秋中

今をを
うとや
あをうの
ゆをう
いをせの
かくをう
花しう
いをを
花をう
今をを
さをを
乃帝

をの言うう形ををを浦の用を浦ふう
うをの言うう浦うを人いをうを衣く乃を
ををうをを成をを朝高うをあをの石
ゆをををををの乃をを月のゆをの文
いをををををををををををををを
ををうをををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを

新拾遺

風雅

風下巻

新後撰

新勅撰

新拾遺

新後撰

新後拾遺

新後撰

新後拾遺

新後撰

新後拾遺

新後撰

新後拾遺

新後撰

新後拾遺

新後撰

新後拾遺

新後撰

新後拾遺

風雅

新拾遺

新後撰

新後撰

風上

新後撰

新後撰

風下

新後撰

風雅

新後撰

風雅

新後撰

風上

風雅

新後撰

新後拾遺

新拾遺上

川のうへ
うぐひすうゑ
ゆうさる
の
波い
高
ぬ
る
の
と
う
る
の
と
う
る
の
と
う

新後古 雜下 詞

月 秋下

彩松 雜上

彩千 冬

彩後拾 雜上

彩松 秋下

月 雜上

風雜 雜下

彩後拾 雜上

彩千 冬下

彩松 冬

彩後拾 雜上

新後古 恋一

月 雜下

彩拾 雜下

風雜 秋中

彩千 冬

月 雜下

彩千 雜上

彩後拾 雜上

新後拾 雜秋

彩千 雜下

彩拾 冬

彩後拾 恋二

新拾秋下
月をよそ
吹ぬる
風雅
西の空に
云の葉に
新千釋教
こまつ川
新拾雜下
月
風雅
新続古雜上

新拾天数
月
新千恋之
風雅
新千冬
新千春賀

新続古恋之
風雅
新続古秋下
月
冬
新千春賀

彩千
夜

月
天芳

風
旅

彩鈴
部分

彩千
寄上

風雅
夫中

新拾
妹下

彩鈴
夜

彩拾
雅上

彩千
霧懐

月
霧懐

新拾
霧懐

空つゝて
うつ人やらに吹るこゝろの一ふしに
こゝろをやとしてゝ心をまよはすこの秋の
月こゝろ
こゝろ〳〵に西の空をたにこゝろ懐乃月
こゝろとさけい月うつくしてゝ山てをしてゝ人さ
こゝろ落うにてさてもあるこゝろを乃を月の美
こゝろまてゝてゝてゝれ橋汁乃花かりけり
淺茅生
こゝに茅てゝ花なく色をかゝる秋の初霜
うゝ秋の
こゝ世をてゝ白なる美ゝ枕乃折のうらもし
美ゝ
こゝの宿てゝ月まよ小舟うゝ宝ゝ月やみゝん
うゝ
こゝゝゝ風色深て深の松ゝ月をかゝて
こゝゝゝ風京秋に秋よかゝ美をすゝ乃秋
こゝゝゝ風
こゝゝゝ死ゝてゝ心うゝ月なゝのをゝる

菅大納言
隆房
松が枝の
後信
参議定忠
光ゝ
左衛門督
光ゝ
順徳院御製
馬名乃明
源秋光
右大将心
関後
攻子内親王
家後
二条院讃岐
守定
菅原貞茂
菅中納言
定家
彩千
恋二

月
霧懐

彩鈴
秋下

彩千
恋二

月
恋二

風
恋二

彩千
雪賀

月
雪上

新拾
妹下

彩千
長傷

彩拾
雅中

月
天教

ひゝとゝ乃
吹ゝゝゝ
わゝゝゝ
美ゝ乃
ひゝとゝ乃
ゝゝ
ゝゝ
ゝゝ

彩後古 長上
山川の
彩後拾 釋教
今はとて
彩拾 雜上
すてゝ
風 恋
ゆくかな
彩千 夏
民のため
月 衆傷
仮ものの
風 恋二
世をうゝ
彩後古 雜上
いつしか
彩後拾 恋五
忘れかな
彩千 秋下
秋の夕
彩後拾 雜下
庭のよ
彩後古 秋下
実方朝臣

業仁親王
家集
源実朝
源実朝
右京大夫 定家
仮殿歌合
四番
寄蟹井人々
家歌合
前大納言為家
雅成親王
家歌合
源実朝
為子
仮文歌合
四番
前中納言為秀

彩千 夏
夏の
彩拾 恋二
いろゝに
彩後古 冬
雪てふ
彩後古 賀
月は
風雅 夏
秋も
彩後古 恋三
かゝる山
月 恋三
あるそふ
風雅 雜中
今はは
彩千 冬
雪てふ
彩拾 衆傷
夢の
彩後古 恋三
あるゝ
彩千 恋一
てゝ

いろゝや
ゝに流れて
ゝに
ゝは
ゝは
ゝは

風雅下　法印定円
風雅上　中納言為相
彩指賀　前中納言定家
彩千枚上　法皇四条
彩指枚上　院御製
同雅上　小侍従
同冬　山家
彩千雅上　法皇四条
彩千枚雅枚　為兼卿
新指霧猿　人丸
同雅中　権中将実継
同玄二　宗尊親王　為兼卿　人々

七十番

うつりてゆく今ハ見ぬ人ふるさと
うつりてゆく　ものの姿　さハらぬ人とちりてゆく
うつりてゆく　ものの姿　さハらぬ人とちりてゆく
うつりてゆく　ものの姿　さハらぬ人とちりてゆく
うつりてゆく　ものの姿　さハらぬ人とちりてゆく
うつりてゆく　ものの姿　さハらぬ人とちりてゆく
うつりてゆく　ものの姿　さハらぬ人とちりてゆく
うつりてゆく　ものの姿　さハらぬ人とちりてゆく
うつりてゆく　ものの姿　さハらぬ人とちりてゆく
うつりてゆく　ものの姿　さハらぬ人とちりてゆく
うつりてゆく　ものの姿　さハらぬ人とちりてゆく
うつりてゆく　ものの姿　さハらぬ人とちりてゆく
うつりてゆく　ものの姿　さハらぬ人とちりてゆく

彩指霧猿　大納言陸奥
彩指赤賀　行朝
彩指悲一　為兼卿　教定
彩綾古冬　段清流が　冨士見
彩綾古冬　宗尚
風悲五　前宰相
彩指雅長　法皇宝子
彩指冬　頃後の法　為子
新千表傷　法皇行在
彩指賀　八人の京極　法寺
彩指雅中　前中納言　為相
彩指霧猿　権中納言　宗教

ゆくさきハ　白河の関
うつりゆくさきハ　白河の関
うつりゆくさきハ　白河の関
うつりゆくさきハ　白河の関
うつりゆくさきハ　白河の関
うつりゆくさきハ　白河の関
うつりゆくさきハ　白河の関
うつりゆくさきハ　白河の関
うつりゆくさきハ　白河の関
うつりゆくさきハ　白河の関
うつりゆくさきハ　白河の関
うつりゆくさきハ　白河の関
うつりゆくさきハ　白河の関

山のくもと　月庭の花よ　新てさらふ
冬きぬと　月庭の花よ　新てさらふ
立ちひて　月庭の花よ　新てさらふ
天地と　月庭の花よ　新てさらふ
しのぎと　月庭の花よ　新てさらふ
ひつて　月庭の花よ　新てさらふ

新和歌類句集

は

新拾 秋下 風 冬
はるかゝる山ぢをすぎて
志ぐれの雨ぞ木の葉を
ちらせぬかぎりそ
毎月抄 新秋 新千 尺
はるゝ京ゆきすぎて
はるゝ京ゆきすぎて
はるゝ京ゆきすぎて

秋千
尺
風
夏

秋続長
新上

秋続長
冬
風
書下

秋接
新上

風
新中

秋接
反

秋続長
新上

新千
孫

風
新中

秋続長
新下

新接
春上

新接
書上

秋千
新中

新接
賀

秋接
書下

秋続長
書上

風
冬

秋接
春上

秋千
新上

秋千
書上

秋千
春上

秋接
新上

はるかぜ　はるかぜ　はるかぜ　

新後拾 春上
新後拾 雜上
風 春中
新拾 春下
新拾 春上
新後拾 春下
新後拾 春上
新後拾 春上
風 恋一
新後拾 春
新千 春下
新拾 春上

はるかぜの　はるかぜのかすみをはらふ　はるかぜの　はるかぜのはなのにほひを　はるかぜの　はるかぜのはなのにほひを　はるかぜの　はるかぜのはなのにほひを　はるかぜの　はるかぜのはなのにほひを　はるかぜの　はるかぜのはなのにほひを　はるかぜの　はるかぜのはなのにほひを　はるかぜの　はるかぜのはなのにほひを　はるかぜの　はるかぜのはなのにほひを　はるかぜの　はるかぜのはなのにほひを

法中納言定家
はるかぜの　はるかぜのはなのにほひを　はるかぜの　はるかぜのはなのにほひを　はるかぜの　はるかぜのはなのにほひを　はるかぜの　はるかぜのはなのにほひを　はるかぜの　はるかぜのはなのにほひを　はるかぜの　はるかぜのはなのにほひを　はるかぜの　はるかぜのはなのにほひを　はるかぜの　はるかぜのはなのにほひを

はるかぜの　はるかぜのはなのにほひを　はるかぜの　はるかぜのはなのにほひを　はるかぜの　はるかぜのはなのにほひを　はるかぜの　はるかぜのはなのにほひを　はるかぜの　はるかぜのはなのにほひを　はるかぜの　はるかぜのはなのにほひを　はるかぜの　はるかぜのはなのにほひを　はるかぜの　はるかぜのはなのにほひを

はるかぜの　はるかぜのはなのにほひを　はるかぜの　はるかぜのはなのにほひを　はるかぜの　はるかぜのはなのにほひを　はるかぜの　はるかぜのはなのにほひを　はるかぜの　はるかぜのはなのにほひを　はるかぜの　はるかぜのはなのにほひを　はるかぜの　はるかぜのはなのにほひを　はるかぜの　はるかぜのはなのにほひを

前内大臣
光明峯寺入道
前内大臣
参議雅経
平宗宣朝臣
道家卿
武蔵守院四郎
藤原隆信朝臣
徽安門院新宰相
処法華院入道
前内大臣
藤原為氏

新拾 春下
風 春上
新後拾 恋四
新千 春下
新拾 春下
新拾 春下
新拾 春下
新拾 秋下
新拾 春下
新千 春上
新拾 春上
新拾 秋下
新千 春下

はるかぜの　はるかぜのはなのにほひを　はるかぜの　はるかぜのはなのにほひを　はるかぜの　はるかぜのはなのにほひを　はるかぜの　はるかぜのはなのにほひを　はるかぜの　はるかぜのはなのにほひを　はるかぜの　はるかぜのはなのにほひを　はるかぜの　はるかぜのはなのにほひを　はるかぜの　はるかぜのはなのにほひを　はるかぜの　はるかぜのはなのにほひを

前内大臣
光明峯寺入道
前内大臣
参議為氏
後鳥羽院御製
後堀河院御製
光明峯寺入道
前内大臣
参議雅有
太宰権帥隆親
中納言朝忠

彩掾 春上
はるの夕なぎ
大納言師頼

彩掾 春下
はるのくれ
源俊頼朝臣

彩掾 賀
はるのあけぼの
藤原家隆朝臣

彩千 春上
はるの夕とりの
左兵衛督公重

彩掾 春上
はるの夕とりの
皇太后宮大夫俊成

彩掾 春上
はるの夕とりの
藤原定家朝臣

彩掾 春下
はるのくれ
藤原為家朝臣

彩掾 春上
はるのくれ
前大僧正慈円

彩掾 春上
はるのくれ
藤原秀能朝臣

彩掾 春上
はるのくれ
藤原雅経朝臣

彩掾 春上
はるのくれ
藤原家隆朝臣

彩掾 春上
はるのくれ
藤原雅経朝臣

彩掾 春上
はるのくれ
藤原秀能

風 春下
はるのこれたいまよりこのかみつけの
はるのこれなるこのりとあれもまき
はるのさてをよろづよまでもあらなむ
実朝 女
俊成院御子
後鳥羽院御
風 春下
はるのこれなるこのりとあれもまき
はるのさてをよろづよまでもあらなむ
後鳥羽院御
風 雜上
はやくとかくふけのはるのこれなるこのりとあれもまき
はるのさてをよろづよまでもあらなむ
後鳥羽院御
風 雜上
はやくとかくふけのはるのこれなるこのりとあれもまき
はるのさてをよろづよまでもあらなむ
後鳥羽院御
風 天
きてみてはのはるのこれなるこのりとあれもまき
はるのさてをよろづよまでもあらなむ
後鳥羽院御
風 春上
きてみてはのはるのこれなるこのりとあれもまき
はるのさてをよろづよまでもあらなむ
後鳥羽院御
風 春上
はるのこれなるこのりとあれもまき
はるのさてをよろづよまでもあらなむ
後鳥羽院御
風 春上
はるのこれなるこのりとあれもまき
はるのさてをよろづよまでもあらなむ
後鳥羽院御
風 春中
はるのこれなるこのりとあれもまき
はるのさてをよろづよまでもあらなむ
後鳥羽院御
風 春中
はるのこれなるこのりとあれもまき
はるのさてをよろづよまでもあらなむ
後鳥羽院御
風 春上
はるのこれなるこのりとあれもまき
はるのさてをよろづよまでもあらなむ
後鳥羽院御
風 春上
はるのこれなるこのりとあれもまき
はるのさてをよろづよまでもあらなむ
後鳥羽院御
風 春下
はるのこれなるこのりとあれもまき
はるのさてをよろづよまでもあらなむ
後鳥羽院御

秋歌上
あきやまをこえくるかぜのはつかりの
はるけきこえのあはれなるかな
後鳥羽院御
秋歌上
はつかりの

新續古今　新拾遺　新千載　新後拾遺　新後撰　新續後撰　新勅撰　新古今

はるとに　たちてとまれる　ぬれぬれて　ぬれぬれて　ぬれぬれて　ぬれぬれて　ぬれぬれて　ぬれぬれて　ぬれぬれて　ぬれぬれて　ぬれぬれて

新拾遺二　新後拾遺　新拾遺三　新拾遺秋　風秋下　新続古今　新撰慶　新拾遺秋上　新続古今　風秋中　新拾遺秋上　新拾遺秋上　新拾遺秋上

新後拾遺 夏
はつ郭公なくや五月の
あやめ草 藤原為家朝臣

新拾遺 秋下
はつ時雨
はつ紅葉
はつ霜
はつ雪
はつ花
はつ鶯
はつ蛍
はつ蝉
はつ虫
はつ月
はつ風
はつ雁
はつ鹿
はつ千鳥
はつ秋
はつ冬
はつ恋
はつ夢
はつ神祭
はつ時雨
はつ紅葉
はつ霜
はつ雪
はつ花
はつ鶯
はつ蛍
はつ蝉
はつ虫
はつ月
はつ風
はつ雁
はつ鹿
はつ千鳥
はつ秋
はつ冬
はつ恋
はつ夢
はつ神祭

新後拾遺 秋上
はつ時雨
はつ紅葉
はつ霜
はつ雪
はつ花
はつ鶯
はつ蛍
はつ蝉
はつ虫
はつ月
はつ風
はつ雁
はつ鹿
はつ千鳥
はつ秋
はつ冬
はつ恋
はつ夢
はつ神祭

新拾遺 秋上
はつ時雨
はつ紅葉
はつ霜
はつ雪
はつ花
はつ鶯
はつ蛍
はつ蝉
はつ虫
はつ月
はつ風
はつ雁
はつ鹿
はつ千鳥
はつ秋
はつ冬
はつ恋
はつ夢
はつ神祭

新後拾遺 恋一
はつ恋
はつ夢
はつ神祭
はつ時雨
はつ紅葉
はつ霜
はつ雪
はつ花
はつ鶯
はつ蛍
はつ蝉
はつ虫
はつ月
はつ風
はつ雁
はつ鹿
はつ千鳥
はつ秋
はつ冬

新後拾遺 恋上
はつ恋
はつ夢
はつ神祭
はつ時雨
はつ紅葉
はつ霜
はつ雪
はつ花
はつ鶯
はつ蛍
はつ蝉
はつ虫
はつ月
はつ風
はつ雁
はつ鹿
はつ千鳥
はつ秋
はつ冬

新拾遺 恋三
はつ恋
はつ夢
はつ神祭
はつ時雨
はつ紅葉
はつ霜
はつ雪
はつ花
はつ鶯
はつ蛍
はつ蝉
はつ虫
はつ月
はつ風
はつ雁
はつ鹿
はつ千鳥
はつ秋
はつ冬

新拾遺 恋四
はつ恋
はつ夢
はつ神祭
はつ時雨
はつ紅葉
はつ霜
はつ雪
はつ花
はつ鶯
はつ蛍
はつ蝉
はつ虫
はつ月
はつ風
はつ雁
はつ鹿
はつ千鳥
はつ秋
はつ冬

新後拾遺 恋一
はつ恋
はつ夢
はつ神祭
はつ時雨
はつ紅葉
はつ霜
はつ雪
はつ花
はつ鶯
はつ蛍
はつ蝉
はつ虫
はつ月
はつ風
はつ雁
はつ鹿
はつ千鳥
はつ秋
はつ冬

新拾遺 秋下
はつ恋
はつ夢
はつ神祭
はつ時雨
はつ紅葉
はつ霜
はつ雪
はつ花
はつ鶯
はつ蛍
はつ蝉
はつ虫
はつ月
はつ風
はつ雁
はつ鹿
はつ千鳥
はつ秋
はつ冬

新後拾遺 秋下
はつ恋
はつ夢
はつ神祭
はつ時雨
はつ紅葉
はつ霜
はつ雪
はつ花
はつ鶯
はつ蛍
はつ蝉
はつ虫
はつ月
はつ風
はつ雁
はつ鹿
はつ千鳥
はつ秋
はつ冬

新後拾遺 恋一
はつ恋
はつ夢
はつ神祭
はつ時雨
はつ紅葉
はつ霜
はつ雪
はつ花
はつ鶯
はつ蛍
はつ蝉
はつ虫
はつ月
はつ風
はつ雁
はつ鹿
はつ千鳥
はつ秋
はつ冬

新拾遺 秋下
はつ恋
はつ夢
はつ神祭
はつ時雨
はつ紅葉
はつ霜
はつ雪
はつ花
はつ鶯
はつ蛍
はつ蝉
はつ虫
はつ月
はつ風
はつ雁
はつ鹿
はつ千鳥
はつ秋
はつ冬

新後拾遺 秋下
はつ恋
はつ夢
はつ神祭
はつ時雨
はつ紅葉
はつ霜
はつ雪
はつ花
はつ鶯
はつ蛍
はつ蝉
はつ虫
はつ月
はつ風
はつ雁
はつ鹿
はつ千鳥
はつ秋
はつ冬

永福門院
順徳院御製
後宇多院
正三位成国
藤原雅孝
藤原為雅
藤原為定
明親卿
従二位時
右門院御製
後嵯峨院
藤原為氏
法華経

形後白 秋下
形後白 秋下
形後白 秋下

風 去下
形後右 兼上
形指 去上
形千 兼上
形千 兼上
形後右 尺
形指 反
風 兼下
形千 尺
形千 長寸
形後右 兼上
形千 物右

風 賀
風 去平
形後右 兼上
風
形指 兼去
形後右 兼上
風 兼上
形後右 兼上
風 兼下
形指 去下
形指 去上
形指 賀

形千 賀茂 寺 風 壽中
形後拾 壽下
形後拾 壽上
形後拾 壽中
形後拾 壽下
形後拾 壽上
形後拾 壽中
形後拾 壽上
形後拾 壽下
形後拾 壽上
形後拾 壽中
形後拾 壽下
形後拾 壽上
形後拾 壽中
形後拾 壽下
形後拾 壽上
形後拾 壽中

秋後拾上
兼日
秋千
素上
秋後拾
素下
秋後拾
兼上
秋後拾
素二
秋後拾
素三

秋千
素上
秋拾
神
秋拾
物名
秋後拾
素三

秋千
素上
秋拾
秋上
秋拾
秋上
秋後拾
秋下
秋拾
秋上
秋拾
兼上
秋千
秋上
秋千
秋上
秋拾
秋上
秋拾
秋上
秋後拾
秋上
秋拾
秋上

新千 恵四
あのもしの秋さられ　もる葉なす　ふきてつる風より　出て色　英朋為氏

新千 雨上
れいてはたそうれ　もる葉落ま　秋くれて　四人をの　藤原為世

風 秋上
方とくをやとふいう　もる葉落ま　秋くあるに　今まとと　二条為定卿

新続古 秋上
ひろ海のおさ　もる葉落ま　秋をとよ　まるあさつ　白雲　源信明朝臣

風 秋上
吹風の　もる葉落　人とま　秋はりそ　白雲　三位季経

新千 恵四
ちのい　秋の海　月もむ　もる葉落　あさとく　秋ハ人を　そうはし　為兼卿

風 秋下
なる　もるまつ　ものとも　秋ハ　月　秋とえ　やいてめ　藤原為氏朝臣

新千 冬
れ竹の　葉ふけの　世ハ　ふくとも　はりまよ　うりの　雲　秋をと　新

新拾 上
あさちの　新おき　風　ふくとも　あまりて　霜　秋　月　安嘉門院四条

新千 恵三
ちきあの　秋のちり　ふくと　秋　ふくと　秋　秋　人　中納言

新拾 冬
もすう　時雨　けを　ふるいく　ふの　雲　秋　金葉歌合

新拾 秋
うすう　風　ちきう　ふりんて　れいな　つる　秋のち　雲　源秀法師

新続古 尺
ふちりの　くれ　ちり　紙　ひて　ひ　ひ　ひ

風 秋上
彩千 秋上
彩指 秋上
彩千 秋上
彩指 秋上
彩千 秋上
彩指 秋上
彩千 秋上
彩指 秋上
彩千 秋上
彩指 秋上
彩千 秋上
彩指 秋上
風 冬
彩指 恋四

弥つきんとそ思ふれぬ
なの浦まわりこそ松八
和哥の浦やこの村に
見ぬ人まつ浦の
あちこち波の
人まつ浦の
和哥の浦やあしの
和哥の浦よん波とて
あつの浦く和哥浦に
まこもしこ和歌あけの
あこ浦やまつこ
はるれとする波の

なあるあ和哥のうらのあけ
なあるこそ八弥つけとそ
なあるの浦より
なあるこれを月のこそ
なあるあしてはこ
なあるあとそ月松
なあるの弥
なあるあ
なあるの弥
なあるあ北
なあるの弥
なあるに
なあるあ
なあるこ

紀行 玄
大僧正道順
順徳院御製
藤原定家朝臣
藤原定性
信度法師
伊勢大神宮
四条大納言
源氏物語
拾遺和歌集
九条大納言
法二位行家

彩指 恋一
彩指 恋二
彩指 羇
彩指 恋一
彩指 恋上
彩指 恋上
彩指 恋又
彩指 秋下
彩千 秋上
彩指 羇
彩千 恋四

恋一 弥と思ふ海
伊勢の海の
伊勢の海
伊勢の浦
秋の
秋の
秋の

風雜　秋下千　秋上拾　秋上　風冬　拾自　秋上拾　秋上　秋上拾　秋上　冬拾

ゆきとのの花のようにまき
ちらして　三位須家
ふるとなく　後鳥羽院御製
きゝ　紀神ようゆて　藤原
ふるのたちの　藤原
きゝ　紀　藤原
秋ゆくとて　藤原
きゝ　紀　藤原
きゝ　紀　藤原
秋ゆくとて　藤原
きゝ　紀　藤原
きゝ　紀　藤原
わたりの下葉　藤原
きゝ　紀　藤原
九月　藤原
あ　藤原
今　藤原
うらぶれ　藤原

秋千　秋拾　秋上　秋拾　秋上　秋千　秋拾　秋上　秋千　秋拾　秋上　秋千

に

風 秋下 にしのかぜ あらしはやみ ふるはぎの
永福門院

風 秋中 にしのかぜ ふきはらふ ふるのをばなの
儀子内親王

風 秋中 にしのかぜ ふくからに ふかれけるかな
後鳥羽院

風 秋中 にしのかぜ ふきぬるなり ふるのをばなの
後鳥羽院

風 夏 にしのかぜ ふきちりて おとろかすなる
藤原定家朝臣

風 春下 にしのかぜ ふくとあるまで ちるはなの
後西園寺入道前太政大臣

風 春中 にしのかぜ ふくこえの ゆきとのみ
後二位乃子

新続古 春上 にしのかぜ ふきぬるかぜの
藤原流製

風 秋中 にしのかぜ ふきぬるかぜの
後伏見院

風 冬 にしのかぜ ふきはらふ
修理大夫俊成

新千 冬 にしのかぜ ふきはらふ
後伏見院製

風 秋上 にしのかぜ ふきぬるかぜの
藤原定家朝臣

新千 秋上 にしのかぜ ふきぬるかぜの
藤原為氏

新続古 冬 にしのかぜ ふきぬるかぜの
上部為家卿

風 秋下 にしのかぜ ふきぬるかぜの
式内親王

風 冬 にしのかぜ ふきはらふ
後院歌

風 秋中 にしのかぜ ふきはらふ
後院歌

新拾遺 春下 にしのかぜ ふきはらふ
後院御製

新拾遺 夏一 にしのかぜ ふきはらふ
後院御製

新拾遺 冬 にしのかぜ ふきはらふ
後院御製

秀句抜書二
秀句抜書中
秀句抜書春上
新続古今冬
新千秋下
風吉上
新続古今夏
秀句抜書
秀句抜書
新千夏
風吉上
秀句抜書
秀句抜書
新千夏
風吉上
新続古今吉上
風秋中
新抜秋下
秀句抜書吉下
秀句抜書
秀句抜書
新千賀
秀句抜書
新続古今
秀句抜書吉上
秀句抜書
風吉下
風吉上

ちりかよひてうすとら
ひ出ぬ春のひかりに
かすむ夜の月を花と
春の山の花の梅ぬく
秋ちかき海ちかき霧も
梅の花ちらく
うす雪のごとく散け
さそふ風まれに花
雲ちかくかりの風も
我やどの花ちるや
春はまぬまに
波の月のつりやどよ

みかきもる衛士のたく火
みかさ山月の出ぬとて
みかさ山月の出ぬとて
みかさ山月の出ぬとて
みかさ山月の出ぬとて
みかさ山月の出ぬとて
みかさ山月の出ぬとて
みかさ山月の出ぬとて
みかさ山月の出ぬとて
みかさ山月の出ぬとて
みかさ山月の出ぬとて
みかさ山月の出ぬとて
みかさ山月の出ぬとて

院慶院制
橋本貫友
民々為明
院理文学
英術為恵
英術為民
民々為明
倉雲大臣
英術宣家
院理文学
小野御所
深草惠房
聖

わが人のたかく
いまやまちる月
ちりのこりてのこる
木のもとの白菊ちり
たちそふ桜ちる
梅の花ちる
とまれとてたちそふ
うす雪ちる梅の
咲花のちるや
梅ちる春の
わちさ風ちる
一むら雨ちるこよ

梅の花ちる
みかさ山月の出ぬとて
みかさ山月の出ぬとて
みかさ山月の出ぬとて
みかさ山月の出ぬとて
みかさ山月の出ぬとて
みかさ山月の出ぬとて
みかさ山月の出ぬとて
みかさ山月の出ぬとて
みかさ山月の出ぬとて
みかさ山月の出ぬとて
みかさ山月の出ぬとて
みかさ山月の出ぬとて

三条西実隆
園右大臣
英術為氏
英術宣家
英家家秀
金光院俊
橋本右大臣
俊成言頼
俊成院制
王生忠茂
後西園寺
英大納言
坂上隆博
徽安門院

五十一首

ほ

秋上　秋千　新上　秋下　新上

ほのぼのとあけてくれぬる秋の月　有家朝臣

ほのぼのとあけてくれぬる秋の月　有家朝臣

ほのぼのとあけてくれぬる秋の月　有家朝臣

彩指
新千
歌上
秋千
夏
秋後古
夏
秋千
夏
秋千
夏
秋千
夏
秋後古
新指
歌上
秋後古
夏
秋指
夏

さてあかしかねぬ
ほのぼのとあけぬれば
うら海風にこぎ出ぬ
ほのぼのとあけぬれば
ほのぼのとあけぬれば
ほのぼのとあけぬれば

[illegible]

[illegible]

[illegible]

彩絵
反
彩絵
反
彩絵
反
彩絵
反
彩絵
反
彩絵
反
彩絵
反
彩絵
反
彩絵
反
彩絵
反
風
千
上
彩絵
反
彩絵
反
彩絵
反
彩絵
反
彩絵
反
彩絵
反
彩絵
反
彩絵
反
彩絵
反

彩千
交
彩接
交
彩千
交
彩接
交
彩接
交
彩接
乖去
彩接
交
彩接
乖去
彩接
交
彩接
乖去
彩接
交
彩千
交
彩接
乖去

元盛法印
世之[illegible]
樂[illegible]具行
後藤[illegible]
順盛法印[illegible]
英俊言[illegible]世
長盛[illegible]
英俊[illegible]民
清隆卿
中之[illegible]毎
英俊[illegible]
家[illegible]永行

彩接
交
風
乖上
彩接
乖去
彩接
交
彩接
交
風
乖去
彩接
交
彩千
交
彩接
乖去
彩接
乖去
彩千
交
風
交
彩千
交

高階重成
家[illegible]
後[illegible]
[illegible]
今上御製
[illegible]人
東三條入道
[illegible]
[illegible]人
清[illegible]意
[illegible]
[illegible]
[illegible]
英俊隆[illegible]

新千
反

きくてはれいかなるをりにか
ほとゝぎすのこゑをまちいでぬる
ほとゝぎす
ほとゝぎすなく

彩絵
文

彩絵
乖上
文

彩絵
文

風
文

彩絵
文

風
文

彩絵
文

彩絵
文

彩絵
文

彩絵
文

彩絵
文

彩絵
文

彩絵
文

彩絵
乖去
文

彩絵
乖上
文

彩絵
乖去
文

彩絵
文

彩絵
文

彩絵
乖春
文

彩絵
文

彩絵
文

彩絵
文

彩絵
乖上
文

彩絵
乖去
文

彩絵
文

彩絵
乖去
文

彩絵
文

風交
彩情
交
風
交
彩後
和上
彩後
和上
風
交
彩千
交
彩千
和上
風
交
彩情
和去
彩千
交
彩情
和去

山ぶくうつりきてかすみたちのかすかなるさまりうら
ほとゝぎすなくこゑのはるかなるひのくれもてあり
れかの月の月日墨
まつ人をとゝそ分てきさ
さのこゑをつまるうら人
きりをひてきやうの
和歌をあれて立
ほとゝぎすなくこゑ
ほとゝぎす鳴人のあり
やうをおもふ
あやめ草ふき
ほとゝぎすなくこゑ
ほとゝぎすなくこゑ
ほとゝぎすなくこゑ
ほとゝぎすなくこゑ
ほとゝぎすなくこゑ
ほとゝぎすなくこゑ
ほとゝぎすなくこゑ
ほとゝぎすなくこゑ
ほとゝぎすなくこゑ
ほとゝぎすなくこゑ
ほとゝぎすなくこゑ
ほとゝぎすなくこゑ

慶長二年訳王
之四
東福寺
東福寺住持
慶長二年訳王
之四
東福寺
後人
源頼賢
後人
三長長衡卿
東福寺
後人
法家良恵

彩情
和秋
彩情
慶
彩情
和下
彩情
和下
彩後
和上
彩情
和去
彩情
冬
彩情
和去
彩情
和去
彩情
和上
風
立仲
彩後
冬
彩千
賀守

やたの野のあさ風
ほとゝぎすなくこゑ
ほとゝぎすなくこゑ
ほとゝぎすなくこゑ
ほとゝぎすなくこゑ
ほとゝぎすなくこゑ
ほとゝぎすなくこゑ
ほとゝぎすなくこゑ
ほとゝぎすなくこゑ
ほとゝぎすなくこゑ
ほとゝぎすなくこゑ
ほとゝぎすなくこゑ
ほとゝぎすなくこゑ
ほとゝぎすなくこゑ
ほとゝぎすなくこゑ
ほとゝぎすなくこゑ
ほとゝぎすなくこゑ

源高秀
東福寺住持
東福寺住持
一卿音上人
宗伴帰
京住戸成廣
慶長二年訳王
之四
大中臣頼基
卿
東福寺
北之庵聖
清原詮
東福寺住持

新撰
袁
新続古
羇
新撰
雨下
風
雨下
新撰
雨上
新撰
雨秋
風
去上
新千
秋下
新続古
雨上
新続古
雨上
新撰
雨秋
新千
神

水の面ようかを見
ほとゝぎすかくしかねてやあらん
菊花の盛りなるとき
ほとゝぎすなつかしすれば
大くに氏去れば日世つかをつくさ
ほとゝぎすなつかしすれば世代今ぞ海とゝ子
ほとゝぎすなつかしすれば世代今ぞ海とゝ子
ほとゝぎすなつかしすれば世代今ぞ海とゝ子

新拾遺　旅　風

春たつ霞のたえま
ゆ　浦の波の里こゑ
ふきてとまりけり
風よ秋なかりて

新千　恋二　新拾遺　哀

後光厳院御歌
無名の隆親
夏の月高数
源親長朝臣
隆基法師

新千　釋上　新拾遺　秋下

前参議
月秋の
霜
為冬朝臣

新拾遺　釋上

源信義子
友京雅顕

新拾遺　旅

月の
春の
夜の
月
やそ
神
こゑ
ふる
雨の
月
やそ
神
こゑ
ふる
雨の
月

新拾遺　恋

花
れ
ば
春
花
れ
ば
春
花
れ
ば
春

新拾遺　釋

都
の
神
の
春
の
山
霞
つ
く
し
て
の
春
の
山
霞
つ
く
し
て

新拾遺　釋上　新拾遺　秋

通具
為冬朝臣

新拾遺　恋

霞
の
霞
の
霞
の
霞

源家俊朝臣

新千　離別　新拾遺　釋　風　友

二百廿一首

へ

九条右大臣
法性寺入道
前関白太政大臣

新千　離別　新拾遺　恋三　新拾遺　恋四

上東門院
藤原為孝
中納言朝忠

新千　釋中　新拾遺　哀

藤原為氏
大納言経信
花園院御製

新千　秋上　新拾遺　秋上

常盤井入道
太政大臣

新千 雜下
ありあけの月の光のうすくなりて
へてはてしなきかなしさ
花園院前内大臣

新千 京中
うとくなりぬる道をなげきつつ
へてはてしなきかなしさ
源有房

新拾遺 雜下
別れはやあふぎの風のけつやあけぬ
へてはてしなきかなしさ
惟宗光範

新拾遺 雜秋
ふるの人のしてすぎにし
へてはてしなきかなしさ
女院中務

新千 旅
ふるさとをこそ
へてはてしなきかなしさ
道信法師

新後拾遺 雜中
うき世をこそ
へてはてしなきかなしさ
刑部卿

新千 天
体隠のしん秋半に
へてはてしなきかなしさ
建立上人

新後拾遺 離
海の底にしみわたる
へてはてしなきかなしさ
兼好法師

風 雜上
独かれ
へてはてしなきかなしさ
恵鎮上人

新千 天
角ぐむ
へてはてしなきかなしさ
後鳥羽院

新後拾遺 秋下
秋霧
へてはてしなきかなしさ
後醍醐天皇

風 京二
ふるの
へてはてしなきかなしさ
俗法師

新千 冬
とこ衣
へてはてしなきかなしさ
後鳥羽院

新拾遺 恋
けるてしなきかなしさ
衣笠内大臣

二十四首

二

新後拾遺 京 風
あけぬるのまつ
へてはてしなきかなしさ
平忠盛

風 京 女
なりぬ
へてはてしなきかなしさ
高階師直

風 京 巳
かなしきもありしやうの
へてはてしなきかなしさ
左近中将惟孝

風 京二
みやみしみやんの
へてはてしなきかなしさ
後鳥羽院

新後拾遺 京 女
なぞうの
へてはてしなきかなしさ
右近衛重

風 秋上
秋ぞうしいるおれの
へてはてしなきかなしさ
前内大臣

新拾遺 恋 風 京 女
まれのやう冬ぞ
へてはてしなきかなしさ
藤原為家

風 京二
彩後古 京二
風 新下
彩後古 京四
彩後古 京四
彩後古 京上
彩後古 新去
彩後古 京下
風 新下
彩後古 京四
彩後古 京一
彩後古 京一

なみのはるかぜにしたがひてこのさくらの花のちるをみるに　　圓宵法師
ちるせやあらはるらむこのさくらのはなをかぜのさそはば　　權中納言雅
そむしつやうやうやあきのかぜのはるかぜにこのさくらのはなをかぜのさそはば　　法印為子
秋風やふくらむこのさくらのはるかぜにこのさくらのはなをかぜのさそはば　　後惠法師
ちるはるかぜにしたがひてこのさくらのはなをかぜのさそはば　　宗安
さそひたてふかぜにこのさくらのはなをかぜのさそはば　　瞻西親王
山里はこのさくらのはなをかぜのさそはば　　前右兵衛督
うゑしをりけるこのさくらのはなをかぜのさそはば　　中務
いつせしをりけるこのさくらのはなをかぜのさそはば　　康俊法師
さくらのはなをかぜのさそはば　　二条大皇太后宮大夫
いつかせしをりけるこのさくらのはなをかぜのさそはば　　圓宵法師
いつかせしをりけるこのさくらのはなをかぜのさそはば　　前参議為家

彩後古 京長
風 新上
彩後古 副別
彩後古 羇
彩後古 京下
彩後古 京三
彩後古 京下
彩後古 京下
彩後古 京奇
彩後古 京二
彩後古 新上
彩後古 冬

このさくらのはなをかぜのさそはば　　二条法親王寛
むすぶかぜのはるかぜにこのさくらのはなをかぜのさそはば　　前参議為家
ふるかぜのはるかぜにこのさくらのはなをかぜのさそはば　　成寛法師母
ちるはるかぜにこのさくらのはなをかぜのさそはば　　祝部成仲
はるかぜにこのさくらのはなをかぜのさそはば　　前参議為世
はるかぜにこのさくらのはなをかぜのさそはば　　前参議為定
雪とみるはるかぜにこのさくらのはなをかぜのさそはば　　權大納言持光
有明のはるかぜにこのさくらのはなをかぜのさそはば　　入道二条前太皇太后宮
はるかぜにこのさくらのはなをかぜのさそはば　　權僧正深守
あやにくなはるかぜにこのさくらのはなをかぜのさそはば　　後贈左大臣
はるかぜにこのさくらのはなをかぜのさそはば　　法印長雅
花をさそふはるかぜにこのさくらのはなをかぜのさそはば　　權中納言雅縁
はるかぜにこのさくらのはなをかぜのさそはば　　

彩後古 寄下
彩後拾 恋又
彩千 新上
彩後拾 新秋
彩千 拾遺
彩後拾 新上
彩千 恋中
彩後拾 新上
彩後古 雜
彩後拾 秋下
彩後古 冬
風 神

あとをとりはとゝめかたなし　志ゝ[illegible]を　藤原[illegible]家
うつまちし　志ゝ[illegible]を　藤原[illegible]
ゆきもとゝ　中ハ秋　[illegible]
きてあすの夜ハ　[illegible]を　藤原[illegible]の孫
うつ[illegible]ハ　[illegible]　[illegible]
都ちかみ　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]

新古今 冬

ふるさとの
ちるもみぢ
ばかりの
ちりぬれば
ちりぬるかぜ
ぞ
ふきにける

恒三位頼政
後鳥羽院御歌所
左大臣
賀茂重保

新拾遺 恋上

ちぎりきの
ちかの
ちぎりは
ちぎりきの
ちぎりは
ちぎりの
ちぎりは
ちぎりの
ちぎりは
ちぎり

秋篠宮
新中
新千
秋下
新拾
恵二
秋篠宮
恵三
新千
恵三
新拾
春上
秋篠宮
恵四
新拾
春上
新拾
新春
新千
恵
新千
上

春の日の光のどかなれば
花の色にうつりぬる秋の
ながめは
春の夜の月
いづれもものさびしき
ものなれど
春の夜の月
ものさびしきは
春の夜の月
いかばかりものさびしき
春の夜の月
春の夜の月
ものさびしきは
春の夜の月
春の夜の月
ものさびしきは
春の夜の月
春の夜の月
ものさびしきは

新拾遺 冬
新千載
新拾遺 雅上
新千載
新拾遺 秋下
新拾遺 雅下
新拾遺 秋下
新拾遺 雅下
新拾遺 雅秋
新千載 賀 冬
新拾遺 冬

さはらぬ夜はなきもうく
いまそちりぬる霜の朝の
かすしよりはなれ
わかれの関はかりなる
神なびの杉を柳を
なびてをなびけ
あしこしのあしの
うつるまさりの
冬ここそはなりけれ

ここは霜神のまはりよりはなれ　俊成卿
ここまでも華無まはる霜の　藤原定家朝臣
ここそもはなれとりもつ　後人
ここりしてみるつよかりけるん　雅経
ここまるたりまねて世はしれる　隆寛
ここはなるの山の秋の　紀貫之
ここはの杉よかはるのやうん　貫之
ここもしわくのしやの月　道濃
ここそ山をとしたるのくら　重遍法師
ここはなるの家　藤原為家
ここまんまはるの　卜部兼直
ここまんはるの　右大臣

新拾遺 天
新千載 賀 雅
新拾遺 秋上
風 賀
風 雅上
風 雅下
風 雅上
新拾遺 恋一
新拾遺 雅下
新拾遺 秋下
新拾遺 雅下
新千載 雅下

はのみちしてはなる
はるをもちりぬる
はさの霧のてをも
春秋の夫井をふ
ありの屋をもくれ
てりかりしさわる
秋下はをふかる
春をもいとかあり
春をはなるの
はるはなるの
はるはなるの
はる

新拾遺
人
法の花ひらく庭に
見ても松分とてをる世
新続古
新下
村雨ちるやうつる風
あれまさる雨の人に
新千
冬
あれそめてきえて
風
志二
ときはまつ
ときはの
ときはの
ときはの

新千
恋一
新続古
恋四
新拾
雜上
新拾遺
雜去
風
冬
新千
冬
新千
恋四
新千
賀
新拾遺
恋二
新拾遺
雜秋
新千
恋四
新拾
恋一

平成十五年度
東京都立大学
大学院入学試験
英語
（三時間）

次の和歌を英訳せよ。

ちはやふる神の御代よりいかなる人のことのはとかはじめけん

ちはやふる神の御代よりつたへきて人の心をたねとしにけり

新続古 和上 わさ水はけふもきりしな うらのうらよりてきてふくかぜ 藤原為家
新千 冬 花のはつみたとあなさ うらのうれいそうぬしそうりけり 従二位為氏
新拾遺 冬 はるゝうやきちぬれは うらの雪つりとたてゝ海はあれは 信實朝臣
新千 冬 はるかくも八十にむすふ うらの雪をけく〳〵きえにけりつゝん 前摂政左大臣
新続古 和上 なにはせしあそうの海 うらの雪あしたゝのあまとも 藤原為氏
風 和上 今はとてもふかりし うらの雪あはれとなにはの海人 前中納言為相
新続古 冬 もしほやきしほのまゝの うらの雪水ふ殿の海人せしを 摂政太政大臣
新拾 冬 吉野山雪ふりそへて うらの雪ぬすみ来ぬ日とふよ 僧正定仲
新千 冬 なにたちうつぬ浪よ うらの雪てまてこれの来てきてうて 後鳥羽院御歌
新拾 恋一 あはてとたのもしに うらの雪てらすもゆく月見 藤原為氏
新拾遺 秋 月をまくゆるゆるあと うらの雪てつるゝ君とあるかり人を 大中臣行房朝臣
新続古 夏 はるはてもふ川なこと うらの雪ゆくとゝいく世とむ氷はるれそ 前中納言為家

新続古 恋一 池水のゆるきうら氷 うらのゆきとゝいくとゝはいそのうきを 権僧正永縁
新千 和下 ゆるとも毎とゝ家の風 うらのゆきとゝ毎とゝ家の風とつゝん 後鳥羽院
風 天 我そうきいそちあまりれ うらのゆきとゝ毎とゝ家の風とつゝん 金葉歌集
新続古 恋四 あひ見ぬ人はさ恋 うらのゆきとゝ毎とゝ家の風とつゝん 藤原為雅
新千 和上 我ちゝ山みねのまゝ川 うらのゆきとゝ毎とゝ家の風とつゝん 後鳥羽院御歌
新千 和上 若ゝ代の極きあの紙 うらのゆきとゝ毎とゝ家の風とつゝん 関白太政大臣
風 和上 ゆしもふ山ふ雪 うらのゆきとゝ毎とゝ家の風とつゝん 金葉歌集
新拾遺 和上 若ゝ君ふけて うらのゆきとゝ毎とゝ家の風とつゝん 権中納言為雅
新続古 恋一 ゆゆの孫よ燈てゆきを うらのゆきとゝ毎とゝ家の風とつゝん 僧正定仲
新続古 和上 老ゝあはみりかゝを うらのゆきとゝ毎とゝ家の風とつゝん 藤原為雅
新拾 和上 和代りかゝぬ松を うらのゆきとゝ毎とゝ家の風とつゝん 藤原為氏
新拾 秋上 七夕のまれまつせて うらのゆきとゝ毎とゝ家の風とつゝん 藤原為家

秋千 雜上

山の若木もとをあらかたいくかの色
うつぬまとうくつをはつ恋のうつ涙
中関白家歌合 左 宗秀

風 雜下

和歌浦よりくつ紙せて
うつぬまとうくつをはつ恋のうつ涙
左 宗秀

風 雜上

とものそをせぬわう
うつしてもあさのあつ紙今月はは
權中納言雅

秋千 雜中

久代まて来よれいへて
うつしてもあさのあつ紙今月はは
中関白家歌合 左

秋千 雜中

九代の老よれいへく
年をへぬ花をうき身ありしあな
英信公詠歌

秋後古 恋四

あすをまつとはいのよ
年をへぬ花をうき身ありしあな
中宮大夫公春

秋千 雜

あすをまつとはいのよ
あつ月の秋の夕くく
清原賀茂

秋千 雜中

あつ月の秋の夕くく
戎蛮野のゆり風多て
英中納言家歌

秋後古 恋上

戎蛮野のゆり風多て
ゆのはのみなつ山しき風ふく
英中納言家歌

秋後古 恋二

ゆのはのみなつ山しき風ふく
ゆのはてあはのうたつ浪ふる
英中納言家歌

秋後古 羇

八橋後拾遺
ゆのはてあはのうたつ浪ふる
荷流中宮大夫

秋千 冬

冬のよいはるあをとを
ゆのはてあはのうたつ浪ふる
後拾遺信実朝臣

秋千 雜下

あつ月の秋の宿の松後
ゆのはてあはのうたつ浪ふる
中宮大夫公春

秋千 雜

ちつ人せはあつ月
ゆのはてあはのうたつ浪ふる
三条為氏

秋千 雜秋

ちつ人せはあつ月
ゆのはてあはのうたつ浪ふる
藤原家高朝臣

秋後古 別

ちつ人せはあつ月
ゆのはてあはのうたつ浪ふる
後八条入道前内大臣

秋後古 冬

ちつ人浦の波をとよ
ゆのはてあはのうたつ浪ふる
藤原隆親朝臣

風 雜上

ちつ人浦の波をとよ
ゆのはてあはのうたつ浪ふる
正三位隆教

秋後古 冬

さ寝る夜の今とかけ
ゆのはてあはのうたつ浪ふる
前内大臣

秋千 羇

さ寝る夜の今とかけ
ゆのはてあはのうたつ浪ふる
正三位隆教

秋千 冬

我かゝ和流あて正
ゆのはてあはのうたつ浪ふる
前内大臣 実

秋千 天

我かゝ和流あて正
ゆのはてあはのうたつ浪ふる
亀山院御製

秋千 恋三

てくひとぬ
ゆのはてあはのうたつ浪ふる
亀山院御製

風 天

てくひとぬ
ゆのはてあはのうたつ浪ふる
前内大臣実

秋千 春

さつ月秋とのの
ゆのはてあはのうたつ浪ふる
亀山院御製

秋千 春

さつ月秋とのの
ゆのはてあはのうたつ浪ふる
前内大臣実

秋千 春

あもあさ法のあしの
ゆのはてあはのうたつ浪ふる
前内大臣実

秋千 春

あもあさ法のあしの
ゆのはてあはのうたつ浪ふる
後鳥羽院御製

秋千 春

しとひけつ法とつ
ゆのはてあはのうたつ浪ふる
後鳥羽院御製

秋千 春

しとひけつ法とつ
ゆのはてあはのうたつ浪ふる
後鳥羽院御製

秋千 春

流今とはさしとふ
ゆのはてあはのうたつ浪ふる
後鳥羽院御製

秋千 春

流今とはさしとふ
ゆのはてあはのうたつ浪ふる
後鳥羽院御製

秋千 春

ちつ人せはあつ月

新撰賀

千年をへてさくなる花なれば
ちとせの春の心地こそすれ

新續古今秋下

ちぬの大の海の中の
まつとやこゝに出てこむ

風雅

きしかてさはぬ人の
心にあるよかてをかな

新撰天

わかれすて月よそむる
あつ大のあるとのよりはつ

新千天

ふしいさうもるくぬる
しら風ふきまはす

風雅中

しら風ふきまはす
かたりあはせし月の

新撰恋三

さ月雨こそこゝをなる
せてを今いのてすくむ

新撰天

山ゝ花ちりはつの
ゝ

新續古今秋下

川水のまくれなゐ
月山にまかりて

風雅

ゝ

新撰上

ゝ

新拾夏

ゝ

二百卅九首

[illegible]

[illegible]

[illegible]

新和歌類句集

は

新千 秋半
[illegible]

月 秋下
[illegible]

月 恋
[illegible]

新拾 恋
[illegible]

風 秋上
[illegible]

新千 恋下
[illegible]

月 霧旅
[illegible]

月 霧旅
[illegible]

新後古 恋
[illegible]

新千 恋
[illegible]

彩白 新拾 彩秋 風 冬 同 新後 風 新後 風 新拾 彩白 彩後 新後 彩後 風 同 新後 彩後 同 新後 彩後 新後 彩後 新後 彩後

彩反拾 雜上
月 友
風 雜中
彩拾 羇旅
新反拾 羇旅
彩千 賀
新拾 雜中
彩終 雜上
彩千 羇旅
風 秋中
彩拾 戊
新拾 去上

源頼政

わすれてもとはるるあきの山風　　藤原為家

なにはがたみしまがくれにこぎ出ぬと　　藤原為家

わすれぬとなにはがたみしまがくれ　　藤原為家

入日さす葉がくれかすかにすまひして　　順徳院御製

秋田刈原やそ路の遠てもとへせよ　　源頼政

雲をなとたちこめてかすかに行の　　藤原為家

万代をつもせる人をわすれぬ　　隆信朝臣

こしの山そのうらかぜにみなれ　　中納言為家

月新　　中納言為家

姉小路殿　　永徳院内府

雪つもるわかの浦なみたちかへ　　藤原為家

煙の田ぶせにかるかやかへ　　大江義重

みなとの人のうれしかるらん　　大納言公重

なにはがたみしまがくれにこぎ出ぬと　　藤原為家

ふかくとなにはがたみしまがくれ　　藤原為家

ふかくとなにはがたみしまがくれ　　藤原為家

新終 冬
風 去下
彩拾 去上
風 去上
新千 去上
風 冬
新千 雜中
月 去下
同 雜上
同 変
新後拾 去上
彩反拾 去上

ふかくとなにはがたみしまがくれ　　藤原為家

ふかくとなにはがたみしまがくれ　　藤原為家

ふかくとなにはがたみしまがくれ　　藤原為家

新千 去上
いつよりか人のあくがれ
なるらん

同 去上
春柳乃まゆにすれる糸のなを
ほころびてしもとのみだれ乱れそめ

彰後拾 雜上
春風の吹ちらすなる
みなの人乃花をうらめて

同 去下
なるれいかりしの野辺のみちしば
かりしの野辺のみちしば

彰拾 恋四
春風の吹ちらすなる
心あるとてみるとしもなく

風 雜上
春風の吹ちらすなる
なるれてしらぬ一年よ

同 尺
春風の吹ちらすなる
未来にまさるとて先みまて

彰後拾 去上
春風の吹ちらすなる
一とせよ二とせいまの心ぬ乃

風 冬
春風の吹ちらすなる
ものうきなりしかとも

新拾 去下
春風の吹ちらすなる
深草やしの原あるとして

月 雜上
春風の吹ちらすなる
花ちるなかるの下草

新千 雜中
春風の吹ちらすなる
山乃とを出なれかとしよ

風 去上
春風の吹ちらすなる
春はあけぬるかとしよ

彰千 雜上
春風の吹ちらすなる
春はあけぬるかとしよ

彰後拾 去上
春風の吹ちらすなる
春はあけぬるかとしよ

新拾 去下
春風の吹ちらすなる
春はあけぬるかとしよ

風 去下
春風の吹ちらすなる
つれなくもあるかとしよ

同 雜上
春風の吹ちらすなる
なくへてもあるかとしよ

新千 去下
春風の吹ちらすなる
ものとなるかとしよ

彰後拾 去上
春風の吹ちらすなる
風にしてなくなるものとしよ

彰千 雜
春風の吹ちらすなる
多くへやる我なもとしよ

彰拾 去下
春風の吹ちらすなる
あれそしものなるとしよ

風 去上
春風の吹ちらすなる
ちいさな山乃白雪あるとしよ

同 去中
春風の吹ちらすなる
みるまに新しき花ぬいて

新千載上
新拾玉上
新拾玉下
新千載上
風玉上
月玉中
同春上
新続古玉下
新拾夏
新続古夏
同秋
新拾賀

尺ひろ山花ぞ咲ぬる　春の日の
ありし山ぢをたずねこそ　雪
をしてやみぬ花ぞさく　大納言経信
かをしむよ月をてらすと　知りて
ちりつる雪を　今上御
つくるあすの花のうつろふ　太上天皇
庭あらしなくゆる雪に　なりて
音ぬぎなれぬ　後朝
笑作なるべしちらす　梅咲
神路山ひかれぬ　今上御
みつる山ぢをわかる　柳葉

新拾恋
同雜中
新続古恋
風雜下
同恋
月恋三
月天
新拾春
新続古恋三
新拾雜別
新千夏
同冬

今はをりしらぬ　源基平
たぬ宿ぬ　大納言経信
うれしいよ　東好法師
あれ河うれ　三条太政大臣
かつらを人よ　永縁院内侍
ありしをたのもしてぬ　大納言為兼
ちらぬ法ぬ　大納言忠良
世ぬ　道命阿闍梨
命やあ　為忠
たのめ　順徳院御製
交衣　前大僧正
ちすの　為道朝臣

風 玄上
みなかのひとにいろはかりそめ　左中将定家卿
新拾 秋下
天雲はかりかりのやすらへ　人丸
彩葉拾 雜玄
つまこいのうたをそなたの月　深草民部卿
新拾 恋一
いつくにかすみをしたかりそめ　為道卿
彩葉拾 夏
かすみしたかりそめにて五月雨の　前右大臣
風 夏
あめのはるのかすみをしたかりそめ　院御歌
同 秋中
ひさかたの月のなかなかしらくもの　清輝朝臣
同 秋中
まかれる中のさかりなりけり　院一条
彩葉拾 雜中
うきの雨はかりの夕霧の　法皇九条
風 雜上
一むらの雲のうへのやまかぜ　藤秀治
同 冬
神なつきはかりの月の　楚紫の云蔭
同 秋中
ひかりをかりあるかりの月の　永縁院

彩後拾 雜下
なりかりかりの雷はきえなくて　刑部卿家
彩拾 秋下
今なりの秋のれをしのふるかりて　藤原実宗
彩千 秋下
なりたかりのよりなりの秋風の　前関白
風 雜上
夕暮はかりにかりの三日月の　摂政太宗
彩後拾 恋一
なりもりかりの三のひかりのの　摂政太宗
風 恋二
よりかりの秋のかりの月のつきの　摂政太宗
新後拾 夏
なりてはかりのかりんなりの　摂政太宗
同 恋二
雨彩をなりてやまとの　摂政太宗
彩拾 冬
雪さいかりなりの霜のかりの　摂政太宗
新千 冬
今朝の雪のあさりの　摂政太宗
同 秋下
ひかりのかりの月のかりの秋風の　摂政太宗
風 冬
なりのかりの雪のかりの　摂政太宗

新後古 交
同 雅下
彩千 去上
新拾 冬
同 雅上
同 忘三
彩後古 去下
新拾拾 去下
新後古 忘四
彩拾 交
新拾 去下
風 雅上

[illegible]
きてうゑしもの花をたづねて
かすみのたちかくすかとうたがはれ
みち山のはるのこかくれてゆくへ
都にはかすみうちそうはるのあけ
とりつるてはなのゆふかぜ
多くはるはかすみうちそうはるの
さくらをまつ秋をかすみとかくる
をみてうゑしはるの人の心
うらぶれてはるのくれぬる
はるの雪はるの月はるの
の春のはるの雅の雪の

[illegible]
はるの空
校御歌所寄
六条内大臣
正二位行教
陸奥国秋田城主
家廿将
正二位行教
校後の歌
清原国友
正二位成実
はるの空
雅の雪
寄雪恋
[illegible]

彩千 去上
風 去下
同 春中
彩拾拾 去下
新拾 去下
同 交
同 去上
彩拾拾 去下
新拾 去下
風 去中
彩千 賀
風 雅上

[illegible]
神の雪の夜風をひとりして
きりひとの山のゆきの
かすみのたちかくすかとうたがはれ
ぬるとりの外山のはるのあけ
交あるかとてはるの山の秋のを
高砂尾上の雪のうちをとへて
[illegible]
春の秋はのりのうちのひとさまて
のとりの雪の秋のはるのひとさまて
[illegible]
神の雪

[illegible]
寄雪恋
[illegible]
[illegible]
前内大臣
従二位為子
[illegible]
[illegible]
[illegible]

風 去下
うゑしとかてぬ人の春こそ
花ゆゑ入る人の海とはなれみちかへて
新千 雜上
あらし吹る高砂の尾の松をも
同 尺
いまの代の人の心よ
月 去下
月 去上
風 去下
さらぬ山下水とせきけて
新子 賀
花よりもこゝろ山とは
風 去中
山さくらもうゑしてさかりを
彩後拾 去下
松のうゑ新しみ沢の水
月 去上
彩松 雜上
梅ゝとはなの枝よりそ
新千 雜上
さくらはいつまさかりを過ても
かりそめの花のさかりは山てれ

新後拾 去下
新千 秋下
彩後拾 去上
風 去中
彩松 尺
彩子 去下
新後拾 春下
風 雜上
月 去中
彩後拾 雜上
新拾 去下
新千 尺
紅人をこゝろ山の沢うちしめて
かすゝ山わかまつをたゝきそれ
山ゝもさくらはいまはうゑそれ
さみだれ雨とはなのこゝろ
色とは雨とれ沢とさくしを
まつ山ゝ風の花をとゝのへて
色ゝてつ庭はらはしをそ
うゑしさくらあまを花の色
みなる花未いまはこゝろそれ
下葉まで色沢く秋人の物とは
ちとゝつる山吹の世を松ゝ色
いまそゝつる冬こそ春を木も

花よりそ山てゝ公のゝ名
花をみつるみちの奥
花よりつゝ世をそれて
花よりあるの人の心よ
花よりそ山
花よりゝ小田の苗代
花よりねをけをそ
花よりしるべのそ
花よりゝ月
花よりゝのみ
花ゝ人をとはゝ
花よりそ井戸
宝治院法橋
藤山義
大人之和
法華院
実為院法橋
実相寺侍
卜部
仮子多院
藤山義
仮子多院
藤山義
仮子内親王
小田村
藤山義
仮子多院
藤山義
仮子多院
藤山義
仮子多院
藤山義
仮子多院
藤山義

新拾 去下
吹ちらすあらしにたえてのこりたる
花にまがへるあきのしらゆき　永福門院内侍

彩千 去下
あくるとも我はなれてへよ去乃屋
梅うえに雪乃如ハ降ハ月と
春ハ来ぬ　法下長雅

新後古 春上
去ぬ春を惜ふ人乃ハ
ま袖とうてふ山さくら
松うえに初ものやとりそめ
かれて花ハ去ぬと思へん
去れ海ハ
去ぬ乃ハ
去ぬ乃ハ
去ぬ乃

彩指 雑上
なれてうれはしのあとはかりにて
はかのふかさに時すぎぬと
平忠家

彩千 雑上
数のぬるゝ山ゝれのとゝさらす
はかの梅のちりはてゝ
梅本夜実絶

新指 交
たのみをうゝぬ世にしてゝ
はかの梅なれはまつ

彩百 衣
あゝさん神の名をわをうゝよ
仮深参院 弁内侍

新仮指 去上
あゝなく声はあるゝ郭の
はかの系よりうゝ風をゝ
参院宿 左衛門

彩千 人
ゝれはとゝうゝさしはゝ公をを
はかれて月をいつゝ
左近参議

風 雑中
あゝなくをこゝゝ山はをゝ
はかれてのゝゝ中をゝ
永福院内侍

月 雑上
あゝなくゝ命のゝ
はかをゝ世のゝゝかけ
和泉式部

月 去中
ゝにはゝ梅はなゝ
はかなゝ年をゝゝ
西行法師

新仮指 雑春
なゝ梅はなゝ
はかゝゝはゝれをゝれ
ゝゝ

新續古 誹
ゝれをゝ蔦ゝ
はかゝゝゝ人ゝゝ
ゝゝ人ゝ

風 雑上
ゝ公ゝゝかゝけゝゝ
はかゝゝゝゝゝ
徽安門院

新指 去下
ゝ底ゝゝゝゝれ絶ゝ
はかゝゝゝゝゝ
正三位知家

月 雑上
ゝ月ゝゝ下ゝゝゝ
はかゝゝ絶ゝゝ
平孝親

新千 誹諧
月ゝゝ底ゝ衣ゝゝ
はかゝゝ絶ゝゝ
正三位知家

彩指 雑上
ゝ山ゝゝ底ゝゝ
はかゝゝゝゝ
極楽寺摂政

風 去中
山ゝゝ底ゝゝ
はかゝゝゝゝ
仮西園寺入道 前内大臣

新千 去下
ゝゝゝゝゝ山
はかゝゝゝゝ
前内大臣

新續古 交
ゝゝゝゝ山
はかゝゝゝゝ
今上天皇

新指 去下
ゝゝゝゝゝ
はかゝゝゝゝ
極楽寺摂政

彩仮指 春下
ゝゝゝゝゝ
はかゝゝゝゝ
嘉喜門院

彩千 秋下
ゝゝゝゝゝ
はかゝゝゝゝ
仮院内侍

風 去中
吹ゝゝ底ゝゝゝ
はかゝゝゝゝ
交納言家雅

新千 去下
ゝゝ風ゝゝゝゝ
はかゝゝゝゝ
仮参議雅有

新後拾 春下
鳳 春下
月 賀
新千 雜上
月 春
新後拾 雜上
新拾 春下
月 尺
鳳 春中
新拾 雜春
七十乃春にはあらねとも
新後拾 春上
春きても梅乃うら枝に風さえて
新拾 雜上
かをるはしめの春のあけぼの

春雪に花ちるかとみるまで
春雪に花ちるかとみるまで
春雪に花ちるかとみるまで

新千 恋上
月 恋下
風 恋下
新後古 交
新拾遺 雑恋
彩千 雑上
風 羇下
新後古 雑上
月 賀
彩千 神
彩後古 恋下
同 恋上

[illegible]

新拾遺 雑上
彩後古 尺
風 恋下
月 雑下
新千 述下
新後古 羇上
月 羇上
新拾遺 恋下
風 恋中
同 春中
新千 恋下
風 恋下

[illegible]

新拾遺賀
君をぞ先久しかるべき春にあひて
つまを宮小白川に宮仕して君の代よ
前左大臣
新千賀
なりとへて春の松ときけば緑なる
後光明院御製
新続古今
緑上
春の日のうらうらと白くなる
新千
春下
雪の下に若菜摘みけり
雑上
春ごとに我なつみけり雪の下に
後花園院宸筆
春の日のうらうらとなる
風雅
雑上
春ごとに我なつみけり雪の下に
後花園院宸筆
春の日のうらうらとなる
永福門院内侍
春ごとに我なつみけり雪の下に
後花園院宸筆
春の日のうらうらとなる
新拾遺
春下
春ごとに我なつみけり雪の下に
後花園院宸筆
春の日のうらうらとなる
後恵法師
春ごとに我なつみけり雪の下に
後花園院宸筆
春の日のうらうらとなる
月
雜上
春ごとに我なつみけり雪の下に
後花園院宸筆
春の日のうらうらとなる
新拾遺
春上
春ごとに我なつみけり雪の下に
後花園院宸筆
春の日のうらうらとなる
風
雜下
春ごとに我なつみけり雪の下に
後花園院宸筆
春の日のうらうらとなる
新千
春下
春ごとに我なつみけり雪の下に
後花園院宸筆
春の日のうらうらとなる
風
春下
春ごとに我なつみけり雪の下に
後花園院宸筆
春の日のうらうらとなる

新千
雜
春ごとに我なつみけり雪の下に
後花園院宸筆
春の日のうらうらとなる
新続古今
雜下
春ごとに我なつみけり雪の下に
後花園院宸筆
春の日のうらうらとなる
月
秋上
春ごとに我なつみけり雪の下に
後花園院宸筆
春の日のうらうらとなる
新千
冬
春ごとに我なつみけり雪の下に
後花園院宸筆
春の日のうらうらとなる
新続古今
秋下
春ごとに我なつみけり雪の下に
後花園院宸筆
春の日のうらうらとなる
新拾
秋下
春ごとに我なつみけり雪の下に
後花園院宸筆
春の日のうらうらとなる
新続古今
秋下
春ごとに我なつみけり雪の下に
後花園院宸筆
春の日のうらうらとなる
新拾遺
秋下
春ごとに我なつみけり雪の下に
後花園院宸筆
春の日のうらうらとなる
風
雜下
春ごとに我なつみけり雪の下に
後花園院宸筆
春の日のうらうらとなる
新千
衆
春ごとに我なつみけり雪の下に
後花園院宸筆
春の日のうらうらとなる
新拾遺
交
春ごとに我なつみけり雪の下に
後花園院宸筆
春の日のうらうらとなる
風
春中
春ごとに我なつみけり雪の下に
後花園院宸筆
春の日のうらうらとなる
新拾遺
恋
春ごとに我なつみけり雪の下に
後花園院宸筆
春の日のうらうらとなる

新千 忠ロ
みちのくの山ちかき河のほとりにて
夢見る人の聖
彩枕 長下
ゆくすえの山のとなりの花
人丸
彩拾 新好
ゆくすえの月日はくもりなく
菅原信吉
月 忠一
あまの川光をそへて月の
為人卿女
風 新上
花とのの数はなほ少なくもあるかな
為兼卿女 新拾 伊
月 交
八月やそこのとなりぬるとて
菅原為孝
月 交
夕ぎりの物とはなしにあるものは
菅原為兼
彩枕 新長
うの川水の色をつくすにに
為定卿
風 新中
かひのうちはなをいろいろつくるん
宗尊親王
同 雜中
山ぶきや竹のあるに入日かな
俊成卿女
新拾 交
立ちぬるかすみのうちなれすまして
藤原為家
ゆくすえの四道
ゆくすえの入海とくなるにの

新拾 雜秋
ゆくすえの海とは何をいふ
栄宗師
彩千 忠ロ
ゆくすえのとなりの人の
二条太政大臣
新拾 賀
ゆくすえの山の万代の
花園院御製
彩後古 賀
ゆくすえの山の万代の
楠大納言実秋
日 忠五
かれるをの人の色ぬるあきの風
菅原秀義
同 長二
ゆくすえの川あるせをせをみる
宗尊親王
同 長
ゆくすえの月の光を冬草の
源保綱
彩千 雜上
ゆくすえの光をうつしてとう
為後宴殿
同 長五
かきくもりて人をうたがるるかな
宗武卿
彩拾 秋下
ゆくすえの月をうつして人の
法橋行尊
月 忠ロ
わすれぬる秋のゆくすえにてうつるれ
大江川院之来
風 長ロ
ゆくすえのとなりの物とかりつかに
永福院

彩指新下カラタ

恨とはたてやたかれたきものとにハ

彩はね指秋上

ゑかれぬれよとそなたてらやきなれ

彩後古秋上

姫ハ乱乃ちくれかわれと

新指秋下

なりとの八重井かれよりてきぬ

彩指姫下

初時ゑもるゆくかわる器乃

彩千雄上

ちくへよゆもるれたりしゑれ

同姫下

ひとりゑ秋ゆゑ姫れねさちと

風云之

世てれちき保いたしもとりと思ふ文と

彩指秋上

妹きゆと思ちゆゑ鶏音ちと

彩千尺

六れちられ乃するたなするいて

同物右

わとしてちるつれ海ろ木と

彩於文

地ちにてくわ可唐とみゆれ

後彩紙

四位後迎左女

刑部卿物

彩後紙

俗院出家

明院坊法号

仁寿殿出家

太上天皇

澄覚法親王

[illegible]

三百廿四首

に

新後拾 恋下
十かの月の光乃松のやしろ乃
秋風ふくなり乃ゝ村さし　　左京大夫

風 雜上
夕日さす落葉の上に時雨ふて
月 冬
ちらぬる秋乃ゝ山ゝ　　大上天皇

同 雜中
庭ゝ乃ゝ秋乃ゝ山ゝ　　東宮大夫

新後拾 賀
松ゝの庭や千ゝ年ゝ乃ゝ
神ゝ乃ゝ月ゝ　　成恩寺平白

新後拾 冬
庭ゝ乃ゝ子ゝ乃ゝ深ゝ入ゝて
雪ゝ乃ゝ　　坂原行春

風 恋中
春風ハ柳乃糸ゝ吹みゝて
こすゝ乃ゝ山ゝ　　民部卿

新後拾 冬
庭ゝ乃ゝ木ゝ乃ゝ
若草乃ゝ末ゝ乃ゝ　　服部宿禰

新千 雜中
庭ゝ乃ゝ人ゝ乃ゝ
知ゝ人ゝ乃ゝ　　中原宿禰

同 雜中
庭ゝ乃ゝ人ゝ乃ゝ
来ゝ乃ゝ　　藤原為家

同 雜上
庭ゝ乃ゝ人ゝ乃ゝ
少ゝ乃ゝ　　藤原為氏

新後拾 冬
庭ゝ乃ゝ人ゝ乃ゝ
ちりぬ乃ゝ　　陽明門院

風 冬
庭ゝ乃ゝ人ゝ乃ゝ
さゝ乃ゝ　　永陽門院

同 雜上
庭ゝ乃ゝ人ゝ乃ゝ
ちる乃ゝ　　藤原定

新後拾 冬
庭ゝ乃ゝ人ゝ乃ゝ
ハ乃ゝ　　只能法師

新後拾 雜上
庭ゝ乃ゝ人ゝ乃ゝ
ちりぬ乃ゝ　　永福門院

新後拾 冬
庭ゝ乃ゝ人ゝ乃ゝ
ちる乃ゝ　　伏見院御宸筆

風 雜中
庭ゝ乃ゝ人ゝ乃ゝ
ちる乃ゝ　　御製

月 冬
庭ゝ乃ゝ人ゝ乃ゝ
吹ゝ乃ゝ　　後嵯峨院

新後拾 雜上
庭ゝ乃ゝ人ゝ乃ゝ
ちりぬ乃ゝ　　後深草院

風 冬
庭ゝ乃ゝ人ゝ乃ゝ
白ゝ乃ゝ　　伏見院

新後拾 冬
庭ゝ乃ゝ人ゝ乃ゝ
月ゝ乃ゝ冬ゝ乃ゝ　　今上院

風 雜上
庭ゝ乃ゝ人ゝ乃ゝ
ちる乃ゝ　　永福門院

庭ゝ乃ゝ人ゝ乃ゝ
ちる乃ゝ　　藤原師

彩千賀
きくの花は八重咲なれども
下にてかれぬ物といふして
月 忘之
きくの葉や風に乱るる波の上に
月 雅上
こぼれ落ちかかる山の井水乃
新續古 旅上
きくの花 風乃つてまこと
月 春上
風 尺
みなもとすゝ海をすゝ
彩ほ指 玄上
梅乃花ふかきそ玄風にそ
彩續古 雑上
きく清や高賀ゝ風うと吹
彩拾秋 秋下
山乃月をわたりて月新乃
新千 交
玄ゝ人へき代ゝ
月 玄下
彩續古 名五
ゝ人乃ゝ

ゝ人和
ゝ遠法親王
武子内親王
校納言家
瓊子内親王
春乃宿
春乃宿
康資王母
後鳥羽院御製
前関白
ゝ遠法親王
二品法親王家
磐富院左衛門

新拾 玄下
新千 旅上
月 賀
新拾 交
風 旅下
彩拾 秋上
月 尺
新續古 交
風 非
新千 旅中
風 旅下
彩千 賀

ゝ山乃下の日数へて
九重ゝ
ゝ
ゝ

新後古 尺
山乃とに入日をとゝめたりとは
こゝ世をとゝめ紫よむ人なれ

月 尺
今をとゝ海とゝ人に中時て

新拾 尺
みてとなのりなきの月

風 妹上
らしをとゝ海人をとゝ入りて

新千 冬
五葉ゝ分て山よ風吹来ハ

月 神
光成よみてゝ月をとゝ

月 恋三
ゝにけさしなれ月をとゝ

新拾 雜上
神ゝ月時雨ゝ

五十五首

新拾 雜上
ほ
人ゝ花を萩乃下ゝ

新後古 恋一
ゝ花ゝ枝ゝ

風 秋中
野ゝ月ゝ

新後古 恋三
海人ゝ

新千 恋四
さゝ

新後古 恋四
ゝ月ゝ

新千 恋四
ゝ

月 恋二
和田の原沖ゝ月乃

新後古 恋三
物ゝ

新拾 雜上
月ゝ

新後古 雜下
月ゝ

かゝ出ゝ
かゝ出ゝ神ゝ
かゝ
かゝ
かゝ
かゝ
かゝ
かゝ
かゝ
かゝ
かゝ
かゝ

彩後古 三下
家後とはいそみぬとねよう
夕暮のこれの庭やこのうん
風 冬
新千 忘四
かなしてなを思ひしれのうぬを
彩拾 秋上
わさてかて紫乃にのこ物うん
新千 衣
こやきりうこみかいれきえかて
同 秋上
あま人の海れこやのうこ
彩拾 忘二
いをれ海の焼せになくこを紫乃
彩後古 忘三
うてまてかうにこへてうれ物月
新千 釋
水泡たのしこれ中にへてかれ
彩後古 雜
百樹れかもの乃これの夜れらに
同 恋上
乃うれ月いく秋れすこうへを
風 雜下
世をうこをかいにはをわうこ乃

彩千 雜中
わう公考をこうん世をこいれう
彩拾 恋下
花さそこ風ふてこを九月を焼
風 雜上
吹あれ花うこれてれうけを
彩後古 恋下
さうこさくまれてあ焼のやこれい
彩千 尺
みうれ中をと花をこきこをこ
風 恋中
やとかやこれ乃をこうこうん
同 雜中
こ乃こを月外面れ中ハ恋をこれハ
彩後 忘四
神をこれをうあこい流れわ
同 赤
玉れを神をこれこいこれ水
新拾 雜上
谷川れうれ面てきこれを
風 神
やうこうこれこうれをうよ小
新千 文
世をこれここうこハれれこに

ふうをまこを思のこ
二月報を花乃
ふこをこてうこをまれ 源氏五
ふうこをこ恋を山をこ 拾後恋落
ふこうこれ月里 拾後恋落 御製
ふうこれわう乃うれ 拾後恋道 御製
ふ海をこれ初をこう 為大納言為兼
ふりをあぬまあをこう也 二月報を遊
うふりうあうれ成をわ 為大後宮禅寺
うこわいをわ流をけ乃 後拾後俳諧
うこわけこを五四れ月 為右京孝樹 拾後女
うこうをこれれのこの月 前左大臣
うれれこのこ乃こうこ 野宮左大臣

同
志五

風
交

新拾
雜上

新千
雜

新拾
雜下初句

風
秋中

新後拾
志一

新後拾
志二

新拾
恋下

新千
戀旅

新後拾
秋下

新千
志四

ながらへてあるかの
海をかやをやまとうたの
交かりけりやうやうとなりぬ
ありしかきしかの中山とをとも
をのへにかすみたちこめ
春うすき雲の山のはの月
なかめやりかすみの一行
なかふかくかよふ
なかふたもみてあるる
なかふ月の影をうつす
なかふかりあるかの舟
なかふきしかさしてみる
なかふきしかさしてみる
なかふきしかさしてみる

舟に漕ぎ出でて
海の中の山とをとも
なかりけりとなりぬ
三吉賀連
月
長門院内侍
法之後内侍
今上内裏
船恒
法皇内裏
源教長
法皇内裏
源教長
法皇内裏
源教長
法皇内裏
源教長

新拾
秋下

新千
志四

同
志一

新拾
志二

同
志四

新後拾
羇旅

新拾
雜長

新後拾
志五

同
志二

新拾
志二

新後拾
羇旅

新拾
長

なかふきしかさしてみる
なかふきしかさしてみる
なかふきしかさしてみる
なかふきしかさしてみる
なかふきしかさしてみる
なかふきしかさしてみる
なかふきしかさしてみる
なかふきしかさしてみる
なかふきしかさしてみる
なかふきしかさしてみる
なかふきしかさしてみる
なかふきしかさしてみる
なかふきしかさしてみる
なかふきしかさしてみる
なかふきしかさしてみる
なかふきしかさしてみる

初りけり
信明卿作
月
平兼盛
法皇内裏
人
源頼政
神の
源時清
神
源頼清
神
源頼清
神
源頼清
神
源頼清
神
源頼清
神
源頼清
神
源頼清
神
源頼清
神
源頼清
神
源頼清
神
源頼清
神
源頼清
神
源頼清

新拾 霧張
新千 秋下
新拾 夏
風 去上
新千 夏
新拾 秋下
新千 秋上
新拾 冬
同 恋上
新千 恋二
新拾 恋三上

あれまさる庭の衣ちらしかへ
ちらしかへ袖のうら風さむしなれは
久しきの月のうらのたちつかれて
立てしもうきにはかりとみるかな
さとをとるさむしさかうへ舟
月の舟さしいるとをのうらと
あまの原ふりさけみれは七夕の
ふねこぎわたる梶のおとかな
九重の庭のとの火かすみけて
つゆかつしかこれあるへ人ふくかん
さらしかの庭の衣をとりけて

七十そ

新千 雑上
同 雑上
風 恋四
新後古 恋二
新拾 秋下
新千 恋二
新拾 恋二
新拾 恋四
新後古 恋二
同 恋二
新拾 雑春

屏

海てらす老木の花はふくかん
山のもとをかめいこそ物なれ
ゆくへをかりのかりをとへて
わもるかのよすらかきりとかりしと
ちの花をそ山にいこうあり夕雲の
山とりのかりのうこれ新あれと
いつまてうらふてたらてあまやの
今いくかのひしとと月日さへ
くるのてもとあるさうなのしが
ものとうのあまれと舟をうつ今よ
されあまのおかへの花やいこの山

屏に定んをの雁の海をうく　道因法師
屏にうつまて伊勢のりいかん　左衛門督実教
屏にうつそへいとの紅葉　永福門院
屏にうつうつ物をいへとも　校倉の紅葉
屏にうつまや尾上のもうん　左近右衛門督良
屏にうつ中みるひの色　九条内大臣冬通
屏にうつ中に恋をうへき　野宮左大臣
屏にうつ中と伊勢ふん　伊勢の御　後撰
屏にうつ中物をとれて　大宰権帥為経
屏にうつ中物八重山言と　板倉屏
屏にうつ中と入へうん　宗真法師

新千
文

なくまつ山やすらへん
かなしてを見れば中なさこそ
思ひて月はいでぬあつまを
新拾
忘る

思ひつる和とこそ
なりにけん
遍照僧正

新千
恋二

思ひつる冥途の
月
為通卿

月
春上

やうに新しと山ゐる人おのへ
思ひてみを見侍るに
為兼卿

新拾
秋上

思ひてねてよすがら月新
為兼卿

月
春下

思ひてもいでぬ見たらぬ
法印頼胤

山姫の庭の秋やうすかて

十七首

こ

風
春下

あはれてしさかりの梅ぬりかを
うゑをなかとかとの久そと

新後拾
秋上

あやめくさいくへ蓮の山ろの
かをとけるかをもてて山ろの

風
夏

花へをみるんあとあれを
仍となふかこんれをとの

新拾
恋三

月
恋五

忘れのとの系なくハ中くよ
わをれをとつをてを中くよ

新続拾
恋五

ふををいてあるハ海さをて
庭のうをとる月をかをまて

風
雜下

新拾
雜下

夕日をす姫の山て春ろ行く

新後拾
雜下

ころやあすの雪の中
俊成卿女

ころやいとよ姫のひと
侍従為教

こふ浪の月の夜の
左衛門督通光

ころふを見をたのをけるを
信実朝臣

こをてるををををを
左近衛中将公雄

こをてをををを
昌義法師

こをを月日を恨ををは
法眼頼仲家

こをを日数のつををて
後人不知

こをてををををやを
左近衛中将方雅

こををれ庭よりををん
左兵衛督家

こををれ山ハ庭をををく
参議院宰相

風雅中
新後拾遺
風下
新拾遺
新後拾遺
秋上
新拾遺
新後拾遺
冬
新拾遺
同
秋
新拾遺
上
新後拾遺
雜中
新拾遺
雜上

何とかの物のかたれ　霊仙法師
こゝろ
ゆく方の山のかすみ　仁和寺宮
こゝろ
ゆく方の山のかすみ　仁和寺宮
こゝろ
ゆく方の山のかすみ　仁和寺宮

風
巻一

新後拾遺
哀

風
巻二

新後拾遺
羇旅

新拾遺
羇旅

新後拾遺
恋三

同
巻三

新拾遺
雜中

新拾遺
雜丗

新後拾遺
夏

風
雜中

新後拾遺
羇旅

[illegible]
[illegible]
[illegible]

風 新下
月 玄中
月 玄中
彩後古 新上
彩拾 賀
彩千 賀
彩拾 賀
彩後古 新中
彩拾 賀
彩千 新上
風 霧抄
彩拾 忘三

花ぬしいかにかなしきわすれて
うちなびき春はきぬれば山もとの
山のしたかぜはるかぜ吹
とゝき桜はなみなれぬれば
はるの出るようゝ山のへと
ゝ春の風あゝ花ゝ波よ
久しなとやきにけるん
松はさく花かゝ見るかゝ
きかやうゝ花の花はに
きつゝ代くらすゝ久しく百年を
春雨にあれらやゝ花ゝけを
行春てやゝ如すゝ墨のた
治人くらゝをつゝや入日さす

とゝさしゝ花のゝ乱
とゝき桜はゝ花ゝ春度
とゝき桜はゝみなれぬ
とゝき花ゝとゝゝ
とゝ海をゝ月ゝ
とかゝ松はゝ花ゝ
とかゝ春はゝ
とかゝ春はゝ
とかゝ春はゝ
とかゝ春はゝ
とかゝ春はゝ
とかゝ春はゝ
とかゝ春はゝ

仁平元年 実朝出家
ゝみ人百和
君ゝて
宝後法師
祝ゝ風流
愛知県流歌
拾遺ゝ為歌
為秀後法
儀同三司
源重之女
仲成和尚
大江志幸
平帝歌

新千 雜上
風 新上
新拾 冬
彩千 冬
風 賀
月 賀
彩拾 賀
彩後古 忘又
月 神
彩千 天
風 新上
新後古 冬

入日さす方をゝ海の
月せ山橋原よ月かゝ
見の山ゝ白ゝ雪ゝ
ゝ春ゝに若ゝ草ゝ
みゝとゝ春ゝ
ゝ月ゝ
ゝ時ゝ
ゝものゝ
みゝゝ
ゝ竹ゝ

とゝ海ゝ
とゝ橋ゝ
とゝ月ゝ
とゝ山ゝ
とゝ春ゝ
とゝ春ゝ
とゝ春ゝ
とゝ春ゝ
とゝ春ゝ
とゝ春ゝ
とゝ春ゝ

為家後法師
為家後法師
為家後法師

新後古 冬
風
新千 雜上
彩拾 春下
新後古 春下
彩拾 春上
新後古 秋上
彩拾 秋上
新後古 冬
彩千 雜上
彩拾 秋下
彩千 春下

海さへ見わたす末はうねの屋
ちとせをかけてかすみたちそよ
かりにかく人をこそ思へてこの
みちに程をあらはさくき
ばかりまてのちの海よりこの
うらにとれる白の戸出の船をと
ちとよれとりてとりてとりて
さらに見つまさるはなしこの
ん京のさかりをまちかねん
とこそやわらぐ江よりかるん
さて人に衣うれかりこの乃
和日さすまさに花ちる

新千 冬下
風
霧懷
彩拾 雜下
沙弥
同
天
彩千 之二
新拾 霧懷
日
春
新後古 雜別
新千 秋下
日 雜下
彩拾 春下
日
冬

色かりの海さへ乃ちりこの
あすをみわのこしをちるる
夕日よりつたるのはうさけて
かりにとれるこの乃理て
かりこそみるとにうふる舟乃
みちせの緑のもしに波をて
かりこそ見てもせの大方の
ちりをあるこいまうこの小舟人
こそ乃ちりこの乃れに加とて
世をつるとみる乃世にてこそ
里はさらにいりの日数を
あるまに世ちるとこの乃

このよをたるの物はなるる
こまをとうるぬるく猿人
こまをけるとふる舟人
こまをとて人や和ちるん
こまをとあるぬとてする
こまをとまたるぬ舟乃
このるるこまりて三の山と
このるる船人こそ乃れ
こまをのひと物をるん
こまをる乃花をるの
こまをぬ乃花世にてこそ
こまをぬいかやられ波

新千秋下
たつたゝの山にあらしのふきしかは
こまもすかつ萩のうへ哉　九条兼実女
風秋上
こまもせぬ山よ雪とは月
彩後拾冬
久さかたの海風さむしあまをとの
世をけてなふしをしんとは
彩千之二
なふくしの浦よりてるみをつて
月冬
しをさしのこそれ雲のかさしをし
彩拾之二
かつ袖たのをしをゆつてうへ
彩千恋四
しをしんはまはをつすは紅
月之二
つれのさしをしけるをは紅
彩後拾之三
袖をつてみをしをあらまうる
新拾恋五
なれ袖をしをあるをまを
月哀
日数をはを今文せれうの作
月春

風雜上
春うとをみ山のうれにかゝる雲
彩後拾恋一
こをうををの庭を深をををの
彩千恋四
をつ人をを花をりかの人をを
風交
ふの山の地ををををを人袖
彩拾雜中
ををふ夕雲袖をを山をを
彩千燈下
をを山庭のやをを春をを
風雜下
庭をえん川のををををを
月之一
袖袖ををををを月をををを
彩拾冬
ををををを雪をれは
風雜中
八重ををををを雲をを
月冬
深ををををを川をををを
彩千之三
をを山田山をををををを

院御所
為輔卿水鶏
藤原定家朝臣
藤原隆房卿
西園寺公経女
嫌食左大臣
為家卿
権中納言実氏
後京極摂政
光明峯寺入道
為家卿
永福門院
約束の数
後人百首
藤原家隆朝臣
藤原定家朝臣
藤原定為

彩千賀
あり原の月は赤きさまにて
風神
もし月をいとあらぬまでこそ
彩拾忘一
うつしてなほ水の流るる
彩千親上
時雨ふるこずえ
風賀
色々なる杉をなほうつる方代
彩拾賀
うつれ川にてかいとうまのこの
彩千冬
吉野のうつりかはれ川にて
彩後古神
ちるや紅葉はしろうつさえた
同交
ちりもいまきみを山ちの
同上
紅のよれ月とはうつりきつれと
風中
多やこしみぬ雲うるれて
彩後古秋下
山田をうつしにいとうつく

とこうして光つれ代をさうゆ
度會朔棟
とこよれ波の清きかれな
芝木田氏之
とこうしてあ人ーなれ
深養氏又
とてもかてもあるべき被れ
六條院出家
とふるつの栄さきれ
拾納て左京
とれいかきつて我ものれ代
左中納言家
とれいかこいとうきつれ
順徳院出家
とるのけきたるやうん
拾納て後光
とるの杉れるつ
法下絵賞
とれよあ人のいとめそ
源定能卿
とれてこしよ井れ稲妻
左大納言家
とれてきつて拾きそ
花山院出家

彩拾忘一
人とれとかりいとの山風
風親上
かりつとうきもかるよかとあよ
彩千表
かみ紅をうつりてて
同冬
紅のて君ふみ山きくれ
同雜下
うたてうつりみさりーやとかも
風親下
毎れうかくれ月の西にけて
彩千賀
角えそーかたのさう紅葉こそ
彩千交
我つぬ人を紅ちりてこそ
彩後拾秋上
きてるとうよれ紅やうしん
彩千尺
うーれ山うつる月とたのしか
同親
さけうまれ杉そつようへようと
同春上
あきかくとのもかきてやうらのの

とれてきて君ちこうつて
皇太后宮大夫後鳥羽
とれうつるかさけう花れ
右京卿
とれとあれとさてこそあん
左大納言家
とれよ君ふ月のそ
冷泉院出家
とめあ公乃いてこよ君れ
權中納言為氏
とてみ人さたるつのね
俊子内親王
とうのとれ川のかれまるふ
嘉出院出家
とうれれつるつと黒
俊三院出家
とれいれれつるあまれて衣
入道二条摂政師
とーへーはるつきれ紅
藤納言為家
とーとうてこりあかん
九条大臣
とうるつうきとーるん
藤納言為氏

風 歌上
新後古 歌中
風 立夏
月 恋一
新後古 賀
風 賀
新拾 雑上
新拾 冬
新後古 歌中
新千 雑中
月 賀
新拾 恋四

おもかげも昔の新さかり名
むしの声の露のたまのつゆ
今よりとはあひも思ひ出に
立ぬ悔の人めをたのみあ
くるを思ひ出の玉ぼこ
思ひ代はあるさかひあ
ぬ世よかりぬるあまれ
ふるてに月ぬと思ひ
かすみをれひろ松のや
名をとりてあるふるさ
花山ぬとをしぬる雲ぬ
きぬふあ事ふれわふ

とたなてみるなの月 後二条院
とり月のれかをたつ 住吉関院合 関白
とり月さんを待てさえ 花山院四首
とのぬれいろ月 住人百初
とのとをて行や路ん 拾遺抄 作世
とのとかうれてきん 山院合 住
とぬるのいろにそ 俊後二条
とぬかとて月つるん 拾遺抄 作
とぬるをたるかん 乗山院四首
とぬるをたるかん 拾遺抄 作氏
とぬ花流のるかく 拾遺抄 作氏
とぬ月をたえをみる 拾遺抄 作
とへてふれ 康資王母

新後古 歌上
新拾 雑上
月 歌上
新拾 歌中
風 去中
新拾 冬
新後古 神
月 神
風 賀
新後古 恋四
月 恋上
新拾 歌下

ちりぬるかをふれる花ぬ
れていろをものと山ぬ
きりさかれてすると山と
ぬ月さうきまて井よ
桜花いやてとにを
ちりてをとこれぬの
をしむとぬるをを
ぬをこ氏人を氏まてぬれて
うてふる宿ぬるをを
まかをうれをやををを
をにみよの面をを
をにをしをを千代のゆ
ををををて月やをん

とをををををを
とををををを
とををををを
と

新拾遺中

新後拾遺中

新拾遺上

新拾遺冬

同冬

新千載

新拾遺秋

同霧標

同霧標

同

新拾遺冬

同

同上

さびしさを思ひしられ山さとの
なるとをくやいさらいはやまさとの
三寺て初めすまれ宮ちるやをれ
こうてねぬ夜の関ちるやをれ
舟ひとをれみをとりぬるさよ
おもあるれ花しあきをれをやをに
なるみるを夕波ちるとをかの月
第れる初の月よりれをきて
蕭あるて山ちるるを衣ふ
うらし舟のうるをてぬるかりせい
こうを人をれをとを思ふ山をに
梅花ををりを思ひに衣井せい

とをこをけの松ちるを
とをををつを世をやかん
とをををを月ををを
とををを月ををを
とをををををを
とをををををを
とををを舟人
とををををを
とををを月ををを
とををを○蛙風
とをををををを
とををを蛙風
とををを雲のををを
とをををををを

新後拾遺秋下

新拾遺夏

新千載冬

ちひつををををを蛙風
水ををををを海をを変をの
ぬをををををを成をを

とをををを蛙風
をををけをををを
とをを八をを中をを月

百九十四首

新和歌類句集

は

風雅下　初千天　初千新上　初千家　初拾雜下　風雅上　風雅上　風雅中　風林抵　初千雜上

[illegible]　けらとい乃ゝ　[illegible]

ふくとゝわゝれ世の中[illegible]　けらとぬゝわ　[illegible]

いそゝれ[illegible]　けるゝ[illegible]れど　[illegible]

[illegible]　けるゝ[illegible]ん　[illegible]

[illegible]　けるゝ[illegible]ん　[illegible]

[illegible]　けるゝ[illegible]わ　中務

[illegible]　けるゝ[illegible]わ　[illegible]

[illegible]　けるゝ[illegible]わ　[illegible]

[illegible]　けるゝ[illegible]わ　[illegible]

[illegible]　けるゝ[illegible]わ　[illegible]

初千 新上
おさまれる代のたとしもなほきこえみてゆふ
けはきにけり
後光明院御製 花園院御製

初拾 新春
月にけりの数とかかれるもとしのはじめ
けはきにけり
坂小松院御製

初続古 春上
たちかへるやそとてとはのもふ氷うちこそ
けはきにけり
三条実盛卿

初続古 新上
あさみどりとしもとしれぬ春なれはやはり代あれ
けはきにけり
醍醐院大納

風 春下
月にけりなほ宮こなるとしはやはり
けはきにけり
藤原為氏

風 春中
梅花いまやひとふしはりてこもるもの
けはきにけり
永福門院

風 春上
ふるさとの星はこよなく梅の花とへとそ
けはきにけり
貞信院公

風 春中
はるのはるとはるのはるとはるのはる
けはきにけり
頼人不知

風 春上
はるのはるとはるのはるとはるのはる
けはきにけり
後伏見院御製

風 新上
あらたまのとしのはじめのあらたまの
けはきにけり
後伏見院

初続古 冬
はるのはるとはるのはるとはるのはる
けはきにけり
法下寺通

風 賀
梅ちるかあらしのはるとはるのはる
けはきにけり
後深草院ノ内侍

初千 雪
はるのはるとはるのはるとはるのはる
けはきにけり
後伏見院御製

初拾 賀
なかへとはるとはるのはるとはるのはる
けはきにけり
為道朝臣

初千 雪
花のはるとはるのはるとはるのはる
けはきにけり
為尹朝臣

初拾 春上
春もはるとはるのはるとはるのはる
けはきにけり
大中臣頼宣朝臣

初拾 春上
花もはるとはるのはるとはるのはる
けはきにけり
宮内卿為継

風 冬
はるのはるとはるのはるとはるのはる
けはきにけり
三条実家

風 冬
あれはるのはるとはるのはるとはるのはる
けはきにけり
永福門院

初拾 春下
てやはるとはるのはるとはるのはる
けはきにけり
花園院御製

初拾 秋上
はるのはるとはるのはるとはるのはる
けはきにけり
民部卿為明

初千 秋上
はるのはるとはるのはるとはるのはる
けはきにけり
惟宗光吉朝臣

初続古 春
月にけりはるのはるとはるのはる
けはきにけり
民部卿顕氏

風 冬
なるとしはるのはるとはるのはる
けはきにけり
後宮内卿

風友
風頌
新千
新千
風
風
新拾
新拾
風
新千
新千
新拾
新拾
新後古
新拾
新拾
新後古

久方の空にうつる雪のはなにさそはれて
はるをまつ
ふるさとの春の雪
うらなしの春の代よりわけ入りて
はるをまつ
春の雪
はるをまつ
はるをまつ
はるをまつ

新千 ちく下
あすかゐの○ゆき水ゐのこほりとけぬるとし
はるかぜ

新千 春下
もゝちどりなくなるこゑのあたらしき
はるかぜ

新千 ちく下
ゆきとのみ見しかのうめのさかりにも
はるかぜ

新千 雜上
ゆきのしたもえいでぬるはるのかぜ
はるかぜ

新千 雜上
ちりぬるはなのあとをとはばや
はるかぜ

新拾 ちく上
梅ちるにもくてれ神ぞいのりける
はるかぜ

新拾 ちく下
とのつくるかぜのはるかぜ
はるかぜ

新拾 ちく下
あくるのこゝろの月よ人ゝはなとの梅よ
はるかぜ

新拾 ちく上
はなくとゝ梅ぬるいとゝ春ぬ
はるかぜ

新拾 ちく上
みちのくにゆきまかりける柳ぬ系のあいく
はるかぜ

新拾 ちく上
ゆきとみまとは柳のはなのえにゆくゝ
はるかぜ

新拾 ちく上
雨ふれはるのはなのあるゝ系よ
はるかぜ

はるかぜふく
二条院御製 内

はるかぜふく
北陸道の歌

はるかぜふく
文治の頃の歌 入道前関白太政大臣

はるかぜふく
北面の歌

はるかぜふく
大江親宣

はるかぜふく
中納言為家

はるかぜふく
京門左大

はるかぜふく
前大納言雅

はるかぜふく
忍流の歌 改九大ト

はるかぜふく
前内大臣

はるかぜふく
宝治院贈 九大

はるかぜふく
亦和院贈 九大

新拾 ちく上
かゝるとゝ神ぞいのりける
はるかぜ

新拾 ちく下
はるかぜふく
羽九

新拾 雜上
さしかりしのむかしのはなのあるゝ
はるかぜ

新拾 雜上
はるかぜふく
入道二京殿 昔道

新拾 雜上
はるかぜ
前大納言善

新続古 ちく下
ゆきのはるのはなのあるゝ神よりつて
はるかぜ

新千 ちく下
とゝ君とはゝやなりぬ
はるかぜふく

新拾 ちく上
いとゝはるかぜのはなのあるゝ
はるかぜ

新拾 変
夜あさけのあるゝのはるのはなのあるゝ
はるかぜ

風 ちく下
夜の花やとゝ
はるかぜ

新拾 ちく下
ものゝやのはるのはなのあるゝ
はるかぜ

新拾 ちく下
うけりゆく月日もとゝめぬ
はるかぜ

新拾 雜上
いくとせかゝるとゝ
はるかぜ

僧 行尊
光孝
為道朝ト
亦和院贈 九大
後二条為子
芳門成寛
入道二京殿 昔道
教行法師

新続古 まち下
新千 冬
新拾 まち上
風 賀
風 雜上
風 新上
新続古 まち下
新拾 まち上
新続古 まち上
新続古 新上
新拾 まち下
新拾 まち下

おしとゝめよいとゝあめそ宗乃花ちる雲れ
新後こゝあ浪よりの蓋ていはけ雲
うゝ宗のけ宗はきのゝ宗ゝ宗ゝ
あもあるゝあゝとゝはけめゝ宗れ
花ゝわゝふけゝ白花さゝて宗のゝ
わゝれもゝのもゝけてゝやゝもゝん
なゝ宗やなもゝ花乃ゝわゝふゝ
ゝさゝとゝだけゝ行宗乃ゝゝとゝ
ゝゝゝゝわゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝ

新拾 新続 新拾 新続 新拾 新続

新拾 雅上
新続古 雅上
新千 雅上
風 尺
新拾 まち下
新続古 まち上
新千 まち上
風 まち上
新拾 まち下
新拾 まち上
新拾 まち上
新続古 まち上

はるばるの月　法下定房
はるばるの月　嬉子三位の子　小侍従
はるばるの夜　菊右兵衛督実盛の子　寶方門院
はるばるの人　法下寶隆　贈後三位の子
はるばる月け　菊大納言の子　太上天皇
はるばる月新　水無瀬院　中納言
はるばる梅の夜　六條門院　後鳥羽院　御子
はるばるとい　三位入道家　菊中納言定家
はるばるとい　菊大納言実教　後鳥羽院　御子
はるばるとい　板垣入道　実自大臣大中
はるばるとい　讀人しらず
はるばるとい　菊右兵衛門督　源

新拾 雅上
新続古 まち下
新拾 まち下
新続古 冬
風 まち下
新続古 まち下
風 まち下
新拾 まち下
新続古 まち下
新千 まち下
新千 雅上
新千 雅上

月に行かすかしれもはさわらはなる
ふかくこえてもめる花池のなかもかしこ
君ゆえに秋てそみゆるかくしたちのふるかな
みかの原乃かけはさもはかりて木ぬ絶の
きてらんといとりにいりはの
宿乃ちるはの葉そぬ玉のはやみ
花もちりうわもはるもはことにみあ
そて河いな秋乃つ秋てて秋のくるか
吹とふはなとなわに秋てはさとと
こて秋ちるのしもしてて乃とを井にいかる
こめしぬるいと秋よぬろてもいとやを
ちれそてむいなすれ乃多ふかしあ我ぬ

はるばるの月　法下定房
はるばるの月　嬉子三位の子
はるばるの夜　菊右兵衛督実盛の子
はるばる人　法下寶隆
はるばる月け　菊大納言の子
はるばる月新　水無瀬院　中納言
はるばる梅の夜　六條門院
はるばるとい　三位入道家
はるばるとい　菊大納言実教
はるばるとい　板垣入道　実自大臣大中
はるばるとい　讀人しらず
はるばるとい　菊右兵衛門督　源
はるばる秋の月　法下定房
はるばる秋の月　嬉子三位の子
はるばる秋の夜　菊右兵衛督実盛の子
はるばる秋人　法下寶隆
はるばる秋月け　菊大納言の子
はるばる秋月新　水無瀬院　中納言
はるばる秋梅の夜　六條門院
はるばる秋とい　三位入道家
はるばる秋とい　菊大納言実教
はるばる秋とい　板垣入道　実自大臣大中
はるばる秋とい　讀人しらず
はるばる秋とい　菊右兵衛門督　源
はるばる秋心の月　菊中納言定家
はるばる秋心の月　菊中納言雅孝
はるばる秋心の月　後鳥羽院　後宮
はるばる秋心の月　二条院讃岐　宮内卿
はるばる秋心の月　後宮内卿

新拾 雅下誹
新続古 ろ下
新続古 ろ下
新続古 ろ下
風 ろ上
風 新上
風 雅上
新千 ろ上
新拾 ろ下
風 新上
新拾 ろ下
新続古 ろ下

ふ山ハ白雪ふりつもれるとしてもいつ人
ちる花乃花しる成三りてをやをうへせよ
花ちんとやもしかぬ山わかりいてをうふ
ふ山ハ白雪ふりつもれるとしてもいつ人
ぬるとしらるるかりてをうふ
菅原てなるあとの屋さ家ぬるを家
山ハ白雪ふりつもれるとしてもいつ人
ぬるとしらるるかりてをうふ
吹ふる花乃ちる者ふれ紅葉
そ山ハ白雪ふりつもれるとしてもいつ人
松枝ふるかりるわナ迴乃ふ
さ山ハ白雪ふりつもれるとしてもいつ人

はるの心の野 後恵法師
はるの心の野 皇太后宮大夫 後成
はるの心の野 正三位孝継
はるの心の野 家隆法師
はるの心の野 九条右大臣女
はるの心の野 前大納言為家
はるの心の野 権僧正慈信
はるの心の野 皇太后宮大夫 後成
はるの心の野 法皇正徹
はるの心の野 前大僧正実経
はるの心の野 左大臣
はるの心の野 太納言重光

新続古 雅上
新拾 ろ下
風 ろ中
風 ろ中
風 ろ中
新拾 ろ上
風 ろ上
新拾 雅上
新続古 ろ上
新続古 ろ上
新続古 春上
新拾 ろ上
風 ろ中

なりてまひこ庭よ立ふりかもてふる
木ハ白雪ふりつもれるとしてもいつ人
ふちらてるとおもふ小倉山
ぬるとしらるるかりてをうふ
ハ白雪ふりつもれるとしてもいつ人
ふる山ハ白雪ふりつもれるとしてもいつ人
ふ山ハ白雪ふりつもれるとしてもいつ人
ふ山ハ白雪ふりつもれるとしてもいつ人
ふ山ハ白雪ふりつもれるとしてもいつ人
ふ山ハ白雪ふりつもれるとしてもいつ人
ふ山ハ白雪ふりつもれるとしてもいつ人
ふ山ハ白雪ふりつもれるとしてもいつ人
ふ山ハ白雪ふりつもれるとしてもいつ人
ふ山ハ白雪ふりつもれるとしてもいつ人
ふ山ハ白雪ふりつもれるとしてもいつ人
ふ山ハ白雪ふりつもれるとしてもいつ人

はるの苑すゑ 正三位通茂女
はるの苑ふるふ 右中将 定家
はるの苑すゑ 源雅忠 実氏 前右大臣
はるの苑すゑ 前大納言為家
はるの苑すゑ 源後鳥羽院
はるの宿ハ 参議流 右宮内卿 公雅
はるの宿ハ 水無瀬流 後鳥羽院御製
はるの宿ハ 後鳥羽流 御製
はるの宿ハ 従四位上 前太政大臣
はるの宿ハ 右大臣 従二位
はるの風よ 右大臣 為氏
はるの宿ハ 伏見院御製

風雅上
風雅上
風雅上
新千載上
新千春上
新千霜
新拾遺上
新拾遺上
新拾遺上
新拾遺上
新拾遺上
新拾遺下

月みる世まておもひいたすあり昔よりも
おもひいてもなをなほあはれなる
こととなれはこしてなをあとをとむ
おもひやるそもそもをしみやなをかの
玉もうるてやいつてをかをしの
ゆく山をいつてなをかをしもなをかの
をしやくらはりしはとうけれて
いつとなく心をかをらはふるあつそまつ
ゆをいとしをしをかをはるをかの
とはよかをかをしをしなをしのと
よをいをはをよをうをしをくをををしとめを
はをはをはてをはをはをは

新拾遺 雜上
ちる花のなりとて花よ咲ぬとて春の人
はるゝ夕風 源義則

新後古今 雜上
梅しるみのそもとの梅すゝのの
はるゝ夕風 土御門院御製

新後撰 雜上
宮さかいにわかうよおもむしろ雪をに
はるゝ夕風 順徳院御製

風 雜上
あしの田のおもかたをれて
はるゝ夕雪 後鳥羽院御製

新千 雜上
吹風のこゝろの花なる梅にこそ
はるゝ夕れ 前大納言為氏

新拾遺 雜下
花ぬすびとの梅のかをこそ
はるゝ夕雪 光厳院御製

新後撰 雜下
むめの花ちるみぬ山のはるゝ
はるゝ夕雪 後福光園院御製 前大政大臣

新後古今 春上
みちをきいく野のしをりに
はるゝ夕雪 後京極摂政 前太政大臣

風 賀
年代をきるの松のこゝろかは
はるのめくみ 従二位隆博

新拾遺 雜下
君とあの花をたのしうつれて又ふきまさる
はるゝ山嵐 前大納言為世

新拾 雜下
はるゝ山嵐
はるゝ夕ゆふ 法性寺入道前関白太政大臣

新後古今 雜上
さそはれやわれをさそはれ山のこゝろに人のめなれ
はるの山ぢ 前摂政太政大臣

風 雜中
いかなる月の月の文をかくさるゝまもるく
はるゝ山ぢ 前中納言定家

新千 雜上
めつらしさみゝわれの神もをの月の人の花よりあるゝ
はるの一しほ 前大納言為兼

風 冬
さゝ人ゝも君をいとゝの花のかをとしのわすれぬ
はるゝ春の夕 ※ゝ人三

新拾 賀
よつゝの花の春のまもりかしこ
はるゝやちゝの 伏見院御製

新千 雜上
ゝちなしいさ星てらかをあををの春の
はるゝやゝゝん 照光院御製 関白右大臣

新拾遺 雜上
あの月の宮とゝ色くこゝ人ゝの
はるゝやちゝん 民部卿為家

新千 雜下
色ちなるゝゝ井の月のとゝ
はるゝやちゝん 前大納言為定

新拾 雜上
あををゝゝ宮とゝ色くまゝ人ゝ
はるゝやこゝん 参議藤原為家

風 雜上
みゝゝ月の山ゝゝ色くゝ
はるゝやきゝん 中務卿宮

新拾 雜上
色月のゝゝ月のゝ
はるゝやきゝん 永福門院御製

新後撰 雜上
色月のゝゝ月のゝ
はるゝやきゝん 後京極摂政 前太政大臣

新後撰 雜上
ゝゝ月のゝ月のゝ
はるゝやゝん 後鳥羽院御製

新千 雲
いけのを井はさくらいけたり咲てはかぜ
はるやたちなん　藤原俊成

風 三上
なるあしのうらもはなはよそあれとこころを
はるさしぬれ　永福門院

風 三中
月のさかりはかりはこの柳陰みとしわもあるく
はるあそふる　藤原為家

風 三中
あさみとり柳はいとのうちくてはふきたれく
はるあそふる　藤原為基 約九

新拾 三上
さくらはなはやさくらんみうしはは心もそこそ
はるあそふる　御製

新拾 三上
郭公なくもそくるくもうちたゆ蓬屋よ
はる雨そふる　三条公家

新続古 三下
むもみれはりにやうのぬのみわれはなをを
はる雨そふる　順徳院 御製

新続古 新上
世中にふくるとまれ花さうわ心はたれく
はる雨そふる　北の法師

風 三中
さいしさいなよいけのみのもくこ家よくるる
はるあのそ　藤原為家

風 三下
ちりはるる花はちをふ久善の心のこうはき
はる雨ふそ　永福門院 門伝

新続古 三上
三月はふ美はあるはてはふきたるもるもるもき
はる雨ふそ　藤原為家 為定

新続古 三下
あをとうわいとものをはにはにはにはにはにはにはに
はる雨ふそ　藤原為家

新拾 雜
はるの雨ふそ　藤原為家

新拾 三上
白ぬはををもはのはをを雪清くはのふかはしは
はる雨ふそ　原家長 羽上

新続古 三上
うちさをしふれも雪のはをてはの野人を
はるあはなわ　法下定為

新拾 三下
さいはふはのをはりはをはりはをはりはをはりはをはり
はるあさはなわ　心敬 九九九

新続古 三上
あはををみるををををををををををををををををを
はるもはるく　為定 為定 九九

風 賀
君はるあはるはるはるはるはるはるはるはるはるはるはる
はるもはるた　後二位藤子

風 新上
時をはをはるはるはるはるはるはるはるはるはるはるはる
はるも海人　心敬 道真 九九九

風 新上
はるはるはるはるはるはるはるはるはるはるはるはるはる
はるもはるは　伏見院 号

風 新上
なををりはをををををををををををををををををををを
はるもはるは　永福門院 門伝

新拾 三下
ををををををををををををををををををををををををを
はるもはるは　永陽門院 為定

新千 雜上
はるはるはるはるはるはるはるはるはるはるはるはるはる
はるもはるは　後二位宣子

新千 ち下
新千 八
新続古 ち上
新々 雅上
風 雜下
新続古 恋二
新千 哀
風 雜下
新千 雅下
新拾 哀
風 雜上
新拾 秋下

はるもいくとせ　前大納言為定
はるみれば　前大納言為世
はるも立てる　民部卿為明
はるも立てる　権僧正静信
はるたちぬる　前参議従盛
はかりもわ　章義門院
はかりなる　大宮内里
はかりなる　信濃前司
はかり出れ　雅成親王
はるかりなれ　太政大臣
はるかりなれ　大納言為
はるかりなれ　大宰大弐
はるかりなれ　重家
はるかりなれ　[illegible]

新続古 哀
新続古 友
新々 哀
新千 恋二
新拾 ち下
新拾 雜上
新拾 ち
風 秋中
風 秋中
風 秋中
新千 秋下
新千 秋下

時しもあれ　後京極摂政
はるぬる年よ　権僧正寛尊
はるぬれば　権僧正為兼
はるぬれば　後伏見院
はるぬれば　権中納言実
はるぬれば　登蓮法師
はるぬれば　前大納言
はるぬれば　後京極摂
はるぬれば　後二条院
はるぬれば　如願法師
はるぬれば　後京極摂
はるぬれば　前中納言隆長

初拾 秋下
初拾 秋津
初拾 秋下
初拾 秋上
初拾 秋下
初拾 新中
初拾 友
初千 友
初拾 郭去
初千 新上
初拾 友
初拾 郭去

あてなる人のもとにまかりたりけるに
はるのよのつきをあはれとおもふ
はるのよのつきをあはれとおもふ
はるのよのつきをあはれとおもふ

新拾 雜上
新續古 夏
新拾 雜上
風 三中
新拾 冬
新續古 冬
新千 五中
新古 雜上
新拾遺 三上
新千 秋
新古 雜上

時雨ふりくるとしらぬ山のはに
みねの里まで月ぞ残れる
みし夜とくるあけぬ郭公
なほとゝまれるまもいくらん
たちこめし霧のあなたの神もうれし
うき雲とおもふ月の秋よりく
立しく秋の初風のなれてそ
世のうきもみくそもろ心
みやこ山心のやどをいくかありて
行末もあれぬ秋よつゝく
色もうつらぬ時ぞ
れて冬をもれぬ山の月ぞ

はつ秋ぞ
はつ秋ぞ
はつ秋ぞ
はつ秋ぞ
はつ秋ぞ
はつ秋ぞ
はつ秋ぞ
はつ秋ぞ
はつ秋ぞ

摂政家隆
安嘉門院四條
院御製
前大納言為氏
御製
如願法師
小侍従
藤原為家
仁和寺宮
御製
法印慶融
仁和寺宮
白川殿
邦長朝臣

風 三上
新拾 三下
風 神
新拾 三上
新續古 冬
新拾遺 雜三
新續古 賀
新拾 賀
新千 雜上
風 三下
風 雜下
風 尺

一むらの雨ふりゆく秋のの
分ぬるこゝろ
ぬるこゝろ
ぬるこゝろ
ぬるこゝろ
ぬるこゝろ
ぬるこゝろ
ぬるこゝろ
ぬるこゝろ
ぬるこゝろ
ぬるこゝろ
ぬるこゝろ
ぬるこゝろ
ぬるこゝろ
ぬるこゝろ
ぬるこゝろ
ぬるこゝろ
ぬるこゝろ
ぬるこゝろ
ぬるこゝろ

はれぬる
はるよりおきき
はるやわらん
はるやあらん
はるやあらん
はるやあらん
はるにけりそ
はるよりなり
はるよりなり
はるよりなり
はるよりなり
はるよりなり
はるよりなり
はるよりなり
はるよりなり
はるよりなり
はるよりなり
はるよりなり
はるよりなり

微安門院
入道二条親
皇太后宮大夫
俊成
紀貫之
延喜御製
法下頼俊
恒秋門院
丹後
前中納言家
法下定為
前大納言為世
永福門院
内侍
院御製

風 五一
今はとて心乃底あさからぬ深草乃
はかなしと云
新続古 三下
あはれてとゝとゝまるとふかちるか乃
はかなしと云
風 三下
ちるはやとみゝ乃さくらもちるはや
はかなしと云
新続古 尺
ちるなるらもあいとゝ乃冬ゆくわいてさく〳〵
はかなしと云
新拾 秋上
もの間は林ときさをわいとゝ林乃紅をこゝやゝ
はかなしと云
風 三下
うゝいゝのさなくゝ心ゆきうゝこゝ春乃
はかなしと云
新続古 三下
もゝ山乃花も春のとうわにぬゝ乃
はかなしと云
風 新下
よの内乃苦はゝ乃みゝ乃わこゝ乃
はかなしと云
風 新上
本乃ひにゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃
はかなしと云
新続古 三下
ゝさゝゝゝかれゝ乃花よいけ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃
はかなしと云
風 三中
春ゝゝゝゝゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃
はかなしと云
新続古 三上
さゝゝゝゝゝ

風 去下
初拾 去上
初千 足
風 去下
風 去下
風 去下
風 去下
初千 平上
初秋 去下
初拾 反
初後 平上
初拾 平去
初後 平上

なのさもかわれわれとりもはふまて尾上はるをよ
まさをちて風やはとくちふこれはをのをのの
百風もちふかめうやはこしたんはのしろよ
山川となりてあはにはるもはにはて
まこれりやはよりるれはりてはれり
まもはあはしはをてはをははを
さはりさはもりてあはをはをて
まこ雨乃日数をはさうわれてそうろ
夜山あもはくしもあれ
らはあくなる文をはよてとあはめ
見らはあかりれ世のはれてなりよ
あれはてくさはりき有はをみれはにはりはあ

はかてちりり 後成女
はかてちりり 紀貫之
はかてちりり 素性法師
はかてみりく 安和の院 小條
はかてはけき 入道二条太政大臣 法守
はかておもる 進子内親王
はかてはく 中務卿宮
はかてめは袖 入道二条太政大臣 牧馬
はかてあれ袖 進子内親王
はかてめは袖 板倉院 小野宮
はかてされる 中書王 小野宮太政大臣 宗性院 小野宮
はかてされる

初拾 新去
風 去中
初千 去
初後 去下
風 去下
初千 秋上
風 去中
風 去下
初千 去下
初千 秋上
初千 新上
初拾 去下

はかてくか 菊亭基任
はかりまわ 母貴之
はから孫も 板倉院 小野宮右大臣
はからそこも 藤原義忠
はかはく 後伏見院 御製
はかはく 度義門院
はかはる 小侍従
はかはれ 後伏見院 御製
はかはる 三条実家
はかはる 右京大夫 亜義
はかはる 永福門院 内侍
はかはる 光明峯寺入道 太政大臣

初板ちゃ下
初板真三
初板ちゃ下
初後吉ちゃ下
風ちゃ下
初千ちゃ下
初千ちゃ下
初板ちゃ下
初板ちゃ下
初板新ちゃ
初後吉ちゃ下
初後吉秋上

あさ日新しいろふかう〇内ぶこうこそ
なれ
なれ
なれ

初拾友　友とはいとこうはいかるるもあかなる　けかれぬるを　赤陽つぼ
初続古　あかれしてなく秋ぬもとれぬ　けかやとをを　中国入道市
まき下　ものそとをの　たる改大た
初続古　もとれやいかにてとをとをなれしを井乃　けかれぬるを　お天四て貴船
新上　わとをなるれすれすけよ高てかれる　けかれぬるを　二条法親王　守覚
初続古　木けとをるもそ我やとにいるるをき　けかれぬるか　按醍醐院　御製
まき下　さくとを紙ちるとれしよ日数へてさくやとを　けかれぬるか　按宇多院　寄相典侍
初拾　うくいやるみ数るの日とをとをもいるて　けかれぬるを　顕親つぼ
まき下　風　一とちにかもうとれしめるもいかるを　けかれぬるを　あ赤つぼ　ち入合
風　さくるくるやてれるみゆるとをみるくるるて　けかれぬるを　赤天四て女世
まき下　めてりけるぬるやるかるみを水若をなれるる　けかれぬるを月　按中納て家資
初千　けいとをそもるれ三るけるいかるるよ　けかれぬるを海　釜定法師
まき上　神も天あるとれるるるみめ縄ふれるる日よ　けかれぬるを　祝了成久
初続古
まき下

初拾賀　久とをとをくるるを君にちくるるれナくるるるもれ乃　けかれぬるを　赤天四て紀貫
初千　三るるるや梅ふれれるを山風くるるくるるを人をくをを　けかれぬるを　六条内大臣
まき下　山とをるーは梅ふきまるくを三るるくはれそて立そを　けかれぬるを　為乃弼臣
初拾　新拾　梅ふきまるくを三るるくはれそて立そを　けかれぬるを　為乃弼臣
新千　うるそて三るとくるるあれるをみくるくるるを　けかれぬるを　従二位氏久
まき下　ごまを川海の流るるけくるるれを　けかれぬるを　按中納言雅
初千　立るくるくるつくくもをよ夜乃ごるる井乃　けかれぬるを　按醍醐院　御製
まき下　あるるれるれるるるくを立ーれ立ーれ高乃　けかれぬるを　赤泰盛定
新千　心とくるるるるるるるるるるるるるるるるるる　けかれぬるを　常盤井入
新上　あるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる　けかれぬるを　赤右近大た
初続古　あるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる　けかれぬるを　赤実隆雅有
まき下　あるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる　けかれぬるを　心階入名
初拾　新拾　心とくるるるるるるるるるるるるるるるるるる　けかれぬるを　右大た
風　心とくるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる　けかれぬるを　大四て左宣
まき中　くるくるるるるるるるるるるるるるるるるるるる　けかれぬるを　赤大信正東　守
初続古　くるくるるるるるるるるるるるるるるるるるるる　けかれぬるを
まき下

初千
尺

とゝろとゝ言ごゝろ
けかはりな　茶大僧正実証

初拾
枕上

産ゝ
けかはりな　茶大納言氏

風
まゝ下

吹ゝ
けかはり　茶源氏

風
新上

風ゝ
けかはり　茶澤法師

初千
まゝ下

風ゝ
けかはり　茶法師

新千
まゝ下

まゝ
けかはり　西園寺入道太政大臣

初千
まゝ下

ゝ
けかはり　源基氏朝臣

初拾
新まゝ

みゝ
けかはり　源頼貞

初続古
まゝ下

言ゝ
けかはり　橘為仲朝臣

初千
まゝ上

ゝ
けかはり　赤染衛門

初千
まゝ上

神
けかはり　茶大納言為定

新千
春下

ゝ
けかはり　橘為仲朝臣

初拾
まゝ下

山
けかはり　陣正平親王

初拾
まゝ下

日
けかはり　二条院讃岐

初拾
尺

ゝ
けかはり　法下房親

初拾
神

ゝ
けかはり　清少納言

風
新上

ゝ
けかはり　平親清女

風
尺

ゝ
けかはり　四条入道太政大臣女

初拾
まゝ下

ゝ
けかはり　後鳥羽院御製

初拾
まゝ下

ゝ
けかはり　お信公通朝臣

初拾
新上

ゝ
けかはり　茶大納言為兼

初続
春下

ゝ
けかはり　御製

初続
まゝ下

ゝ
けかはり　茶閑白九条

初続
まゝ下

ゝ
けかはり　閑白茶大臣

初拾 まろ下　心さうしてゆくそはふるにふれ　けかりをつ〜者　校訂で忠光

初続古 まろ下　いとうしなみはたらるてしうふるにもる　けかりをつ〜者　菜中納言實基

初続 春下　夜とうゝ〇なれて〜をはたてあ〜しわたく　けかりをつ〜者　正三位義重

初続 まろ下　八十もて我身世よあるうゝみさへけりかる　けかりをつ〜者　法下濃守

初続古 まろ下　本のゝこの座乃うゝ松乃なけて風ふれある　けかりをつ〜者　慈光上人

風 新上　うゝやもきゝこゝめくゝの時まあいく身に　けかりをしあく　桜山中納言定光

風 秋上　座をたゝあきいとゝ月ゝ川ゝうゝいくゝあ風ふゝき　けかりをしあく　入道二条親雅 法寺

風 まろ下　ゝゝ川ゝ代乃ゝ日とたゝふゝよゝるゝ秋あるゝくゝよ　けかりをあゝん　桜井滋慶 四条

風 天　けりけ座ゝゝに樂ゝてきゝこゝゝ乃ゝ乃ゝ座ゝゝあるゝよ　けかりやあゝん　赤松上人

初千 新上　けりあゝ乃続けりあゝし者ゝ今ゝてゝふゝ浪けりと　けかりやあゝん　菊家春宗

初拾 新上　ゝ風けゝゝふゝ乃ゝゝけりゝゝゝ乃ゝ乃ゝ　けかりやあゝん　二条法親王 尊道

初続古 まろ下　心ゝ乃ゝゝゝ乃ゝ乃ゝけゝ乃ゝ風けり　けかりやあゝん　九条尚経 実雅

初拾 新上　世ゝとゝゝ乃ゝゝゝ乃ゝ乃ゝけゝ乃ゝ乃ゝ　けかりやあゝん　僧宋俊

初拾 秋上　秋けゝゝゝ乃ゝゝ乃ゝけゝ乃ゝをけ神ゝゝ　けかりやあゝん　宮内大臣文 後成

初拾 新上　ゝ乃ゝ生乃ゝけゝゝゝ乃ゝゝゝけゝ乃ゝけゝ　けかりやあゝん　祖月法師

風 まろ中　乃ゝけけ乃ゝ大ゝゝ乃ゝ乃ゝ〇ゝゝ乃ゝけゝ　けかりやあゝ　菊中納言

初千 長　けゝゝ乃ゝ乃ゝ生乃ゝ出乃ゝとゝゝ乃ゝ乃ゝ　けかりやあゝん　花山院忠

初千 秋下　ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ　けかりやあゝん　桜二條流 御製

初拾 まろ下　ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ　けかりやあゝん　津守國冬

風 まろ中　ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ　けかりやあゝん　菊中納言達房

初続古 まろ上　ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ　けかりやあゝん　大枝山左衛門

初続 まろ下　みゝゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ　けかりやあゝん　藤原家門大臣

初千 まろ上　面新ゝゝゝ

初拾 新上
初拾 新上
初拾 秋
初千 夏下
初千 夏下
風 夏中
風 夏下
初拾 夏下
風 新上
風 賀
風 新上
初千 秋上
初千 立冬

初拾 秋上
初千 冬
新續 夏
初拾 冬
風 冬
初拾 冬
風 秋中
初千 秋上
初千 秋上
初千 立二
初續 立三
初拾 立一

はるかぜは
はるかぜを
はるかぜに
はるかぜの
はるかぜ
はるかぜ
はるかぜ

風友　はふきもとゝ　藤大納言為氏
新拾玉下　はやさうも　入道一品親王法寺
風新下　君にとをくなりみちのかきはてる月は　藤原法師
風新中　心あらはれはてにしをとはれてをの三つとをれ　永仁院
新拾新中　思ふことなりわかるゝいやたかなる　藤津帝　永親
新後古霧　ひかりのこしをまつのこゝろ　藤中納言実家
新拾新秋　なりをしをはらはるもいつこれ　巖院上人
新千新中　あをしみこしのふりにしらやもうんう　藤資忠朝臣
風賀　ふるてあるこゝをとをれ数しらいわれ　康資王母
新千霧　わとれをこれてよるもらうてうこいて　宗尊親王
新拾恋一　きをなくこゝとをれ　竹内中納言雅
新後古恋二　ふるとちなん神　藤原有高

新拾新下　うらはの拾れはの方をあてこ世にはなくこ　禅覚法師
新後古春　けてとてそめ
新千恋四　ちはまてはるこ　大江廣秀
新拾恋一　あしはやはるこ　民部卿資宣
新拾恋三　けてそかこ
新後古恋二　なるこ世にあわこまくこ　永仁院内侍
新後古春　けてそかこ　藤大納言為定
風恋三　なれ数のあれのこ　西園寺教
風恋四　けてそのこ　宣光院内大臣
新千新中　けてそこ　永仁院
風恋三　けてやこれ　法興院内大臣
風秋上　けてこ　法名
　　けさ　藤原為明

新千 秋上
はさの花とわ　贈従二位為子

新千 秋上
春とは神もそうけるむかしさくらの文ふる野辺の
はさのはなとわ　権大納言実後

新拾 秋上
こゝろきよく春ふきつる神わもいとはかる
はさのはなとわ　法印隆淵

新拾 雜
梅の文ゝとゝろそめ一枝てゝ
はさのはなとわ　大義門有家

新拾 秋上
文ゝとゝろ春てゝ
はさのはなとわ　前京兆忠定

新拾 恋上
ゝれもゝよりゝゝゝゝあるゝゝゝゝ

新続古 恋四
風 恋四
新千 神
新千 恋一
新千 雪
新拾 雪上
新拾 冬
新拾 離
新続古 変
新続古 恋二
新拾 恋三

ふるとしのとわてしらぬやまちめくりしら雲
はめなれぬ　旅人不知
こゝろをとゝまるかとゝまりやをさうらんさ
はめ　或心恒明親王
てはしらぬ一時の華オや神はしらぬ七代乃
はめぬきん　法下定為
なるゆゝしうもわしあくるいろや走はる
はめ　ぬ　ん　東大納言季
ふやさゝのうゝ春ゝ代乃ゝ色ゝりそむる
はめ成らん　四条隆政大臣
谷ちきなとなくやうゝとなれそもしる
はめ　ぬ　ん　民三位頼政
ゝ春ゝ代ゝ乃ゝ色ゝ神ゝ月ゝ日ゝ乃ゝ花ゝ乃ゝ
はめなるん　東大納言為定
みやこ平く今日ゝ乃ゝそむる春世坂ゝ関ゝ
はめ　ぬ　ん　平政村朝臣
いつゝとゝ春ゝ来ゝ川ゝとゝやゝ
はめ成らん　惟明親王
いとゝ久く我ゝ為ゝ春ゝ代ゝ乃ゝ中ゝ
はめ　ぬ　ん　東大納言為氏
ゝ春ゝ乃ゝ夜ゝ乃ゝ〇ゝ
はめなるん　源光行

五百四十九首

新続古 雪中
風 雪上
風 冬
新千 雪上
新拾 離上
新続古 賀
新続 雪上
風 述
新拾 雪下
新拾 雪上
新拾 雪去

に

ふかりとそていわるゝ山ゝ
に　源師時
ゝ春ゝ乃ゝ日ゝ雪ゝ乃ゝ
に　源師時
ゝ川ゝとゝふゝ行ゝ
に　源行家
入ゝ
に　源実朝
ゝ山ゝ乃ゝ
に　藤原定家
ゝ川ゝ代ゝ
に　源頼政
ゝ山ゝ乃ゝ
に　東大納言為世
ゝ山ゝ乃ゝ
に　院御方
ゝ山ゝ乃ゝ
に　永福門院内侍
ゝ山ゝ乃ゝ
に　東大納言為定
ゝ山ゝ乃ゝ
に　光厳法皇

風雪
みちもしらぬ雪のうちにうもれし春の花のかをたに
春をまちえぬ人のうらみあるかな月にて焼風
人こそあらぬ春ぞ忘れぬ
にのこしおく

風秋上
あきの月
にのこしおく
源俊氏

新拾遺
雪中
月にあれとまつ人もなしやどの花
にのけふ

風雪中
源義詮朝臣

新後古今二
雪ちらぬ
にのまつ

風雪中
雪にうもれて咲ぬ梅の花
にのまつ

新後拾遺
夜
雪にうもれて風さえ
にのまつ

風雪中
雪にうもれて咲ぬ梅の花
にのまつ

新後古今
新上
雪にうもれて咲ぬ梅の花
にのまつ

新拾遺
雪上
雪にうもれて咲ぬ梅の花
にのまつ

風雪下
雪にうもれて咲ぬ梅の花
にのまつ

風冬
雪にうもれて咲ぬ梅の花
にのまつ

新千
秋上
雪にうもれて咲ぬ梅の花
にのまつ

新千
冬
雪にうもれて咲ぬ梅の花
にのまつ

新後古
秋上
雪にうもれて咲ぬ梅の花
にのまつ

新後古
秋上
雪にうもれて咲ぬ梅の花
にのまつ

新後古
秋上
雪にうもれて咲ぬ梅の花
にのまつ

新千
春
雪にうもれて咲ぬ梅の花
にのまつ

新拾遺
雪中
雪にうもれて咲ぬ梅の花
にのまつ

風夏
雪にうもれて咲ぬ梅の花
にのまつ

風冬
雪にうもれて咲ぬ梅の花
にのまつ

新後古
賀
雪にうもれて咲ぬ梅の花
にのまつ

新千
五三
雪にうもれて咲ぬ梅の花
にのまつ

新拾遺
雪中
雪にうもれて咲ぬ梅の花
にのまつ

新後古
五
雪にうもれて咲ぬ梅の花
にのまつ

新拾 秋上
新千 冬
新拾 冬
新拾 冬
風 冬
新拾 秋上
新拾 秋下
新続 雜上
風 秋上
新拾 秋上
新続 秋上
新続拾 冬

にの[illegible]　貸見院内裏
にの[illegible]　前大納言為氏
にの[illegible]　従二位為子
にの[illegible]　祝成元
にの[illegible]　或人内裏
にの[illegible]　前右兵衛督有
にの[illegible]　大江宗秀
にの[illegible]　左中将為家
にの[illegible]　平英時
にの[illegible]　御製
にの[illegible]　藤中納言為藤
にの[illegible]　前大納言為世

新千 秋下
新千 恋四
新拾 秋下
新拾 雜秋
風 冬
新千 冬
新千 冬
新千 冬
新千 冬
新拾 冬
新拾 雜上
新拾 雜上

にの[illegible]　或乳院内裏
にの[illegible]　従二位隆博
にの[illegible]　前大納言実教
にの[illegible]　権大僧都宗親
にの[illegible]　伏見院御宇
にの[illegible]　後醍醐院御製
にの[illegible]　権僧正慈信
にの[illegible]　権僧正慈信
にの[illegible]　前大僧正慶俊
にの[illegible]　後京極摂政
にの[illegible]　権僧正尊我
にの[illegible]　前大僧正慶俊
にの[illegible]　後京極摂政
にの[illegible]　後鳥羽院御製
にの[illegible]　後京極摂政
にの[illegible]　後京極摂政
にの[illegible]　後京極摂政

新拾 冬
新拾拾 冬
新拾拾 冬
新拾拾 新秋
新拾拾 新秋
新続古 冬
新続古 冬
新続古 新上
新千 冬
新拾 冬
新拾 新上 冬

にのたて者　法三位為理
にのたて者　贈法三位季
にのたて者　法眼行洞
にのたて者　円大臣
にのたて者　前大納言為氏
にのたて者　前京兆藤原為
にのたて者　藤原隆門流但馬
にのたて者　中務宮宗尊親王
にのたて者　弾正尹忠
にのたて者　権帥藤原為
にのたて者　花園流
にのたて者　侍従見流
にのたて者　三河守

新拾 冬
新千 冬
新続古 冬
新拾 五三
新千 新上
新拾 新上
新拾 新下
新拾 新下
新拾拾 新上
新拾拾 新下
新拾拾 新下
新千 文

にのたて者　大納言為信
にのたて者　円右近衛
にのたて者　権中納言為
にのたて者　権帥藤原為
にのたて者　前大宰帥為
にのたて者　土御門流　小宰相
にのたて者　中院入道前大臣
にのたて者　前大納言為世
にのたて者　前大納言為世
にのたて者　白川流　大蔵
にのたて者　土御門入道　円大臣
にのたて者　今出川大政　大臣

新拾遺
なみあるかれ階は大にしけるうわ枕神ふれしく　に所ふるもの　左大臣

新続古
時あれ三門乃やまに着とそ　に所ふるもの　雅永朝臣

風
心とき春はやへ花に死乃はれとて　に所月新　進子門親王

新続古
みのけとに風りうれてそうわもあの神ま　に所桜の色　前参議雅有

新続古
とのけに風なりわにこふ人もあわこうやろ　に所桜の色　前大僧正海河

風
もちとわけしけるまはあさみわ野人お寄　に所桜の元　仁多羽流　二首

風
けきそめてまに成とそ志ぬ宮しき　に所桜元　雅有朝臣　二首

風
ま月かわとむしに移りてかの新に　に所桜の元　永福門院内侍

新千
神ふれて行ゝ為やしんまきまいの子そ門を　に所桜の元　大宰帥師為流

風
新けそ松し本みのいまは池よみなそこを　に所桜　山と今為忠　改大臣

新拾
池はやはくさうる松風みあるそこを　に所桜なし　西行法師　西行法師

新拾
君ゆへとけふ三れ志のいうにあるに　に所桜を　仁多羽流　二首

新千
雷とのあやまれ志ふ桜の紅とし井ま　に所ふるる　清原元輔

風
子とめ志れわ乃れ桜紅風ま　に所ふるわ　前大僧正慈円

風
紅なそ身に志ぬ乃の乃ま　に所ふるわ　乃国法師

風
ま風乃紅ま志に志ま人もめ乃　に所ふるわ　後京極摂政

新拾
ぐ志わ乃ま紅乃ま　に所ふるわ　西行法師

新拾
久ゝ乃ま紅乃ま　に所ふるわ　後鳥羽院

風
ま上　に所ふるわ　後鳥羽院

風
ま中　に所ふるる　中務

風
五四　に所ふるを　延政門院新大納言

新拾
五三　に所桜紅　源氏清

新続古
新中　に所ふるん　宮内卿桜雲

新千
新三　に所ふるる　前内大臣惟継

新後拾 雜中
風
賀

いのちをしらぬ人もうらやみにけりとよみ侍りける

榮仁親王

くもりなき君の世ながらあきの月はるかにすめる雲の上人

華山院内大臣

新千 雜
いつしかとうらやみてこそ月見ばいまはかくれぬ身をなげかまし

前大僧正慶運

新後拾 夏
みなれぬるいまはかくれぬ身をなげかまし

後小松院御製

新拾 羇
さらぬだに旅にしきたる人なれば

後醍醐院御製

新後拾 秋下
なびくらん

二品法親王 尊胤

新後 秋下
あるかぎりのふるのなかぬきとめ

三条入道太政大臣

新拾 秋下
いたずらに月にいたるこころかな

正三位成國

新拾 冬
神無月あさ日のかげもうらぶれぬ

橘後彌羽大

新後拾 秋上
夕されもなみのうきぬ

恒二位家尹

新千 秋下
秋のあさにそしるもみぢのなかれ

御製

新千 雜上
なびくこころのあらぬ

元弁法師

新拾 秋下
あしのうらのなかれもとめてさくらの

新拾 冬
こころあらばこのあきのうらのなかれ

新拾 雜上
心姫のうらにくるあきのうらのなかれ

新後拾 秋上
ゆふぎりのうらのなかれにとまりて

行信正果

にしさらん

少輔法師

にしさらん

玄勝法師

にしさらん

行信正果

にしさらん

ほ

新千 社上 ほとゝぎす　道信法師
新拾 恋四 ほとゝぎす　前内大臣 太政大臣
新々 雑中 ほとゝぎす　左大臣 為義 詮
新千 神 ほとゝぎす　前大納言 為定
新続古 恋一 ほとゝぎす　源義朝朝臣
新続古 雑上 ほとゝぎす　前大納言 為定
新拾 恋下 ほとゝぎす　友房卿
風 友 ほとゝぎす　右近大将 道嗣
風 友 ほとゝぎす　前中納言 定頼
風 友 ほとゝぎす　待賢門院 璋子
新千 友 ほとゝぎす　後醍醐院 御製

新千 友 ほとゝぎす　御製
新千 友 ほとゝぎす　太政院 贈太皇太后
新千 友 ほとゝぎす　前大納言 為世
新千 友 ほとゝぎす　前大納言 為忠
新千 友 ほとゝぎす　中務卿 宗尊
新千 友 ほとゝぎす　前中納言 定家
新千 友 ほとゝぎす　友家卿
新千 恋四 ほとゝぎす　前右兵衛督 為教
新千 雑上 ほとゝぎす　前大僧正 隆弁
新千 雑上 ほとゝぎす　友原行朝
新拾 友 ほとゝぎす　法眼 慶善
ほとゝぎす　三条入道左大臣

新拾遺　月新しやもしらぬ宵の月ゆゑ
新拾遺　はるかなるものの月にしもしとまの
新拾遺　つれなくやうつりはてぬ人ゆゑ
新拾遺　いくたびとなくなかめもとうの月
新拾遺　出はてぬ月にはまつ
新拾遺　あらぬ
新拾遺　あらぬ
新拾遺　つれなくなつかしうつれ
新拾遺　まつの
新拾遺　はるかに
新拾遺　きけてなかるるあるに
風　はるかに
新拾遺　はるかに

はるかに　はるかに　はるかに　はるかに　はるかに　はるかに　はるかに　はるかに　はるかに　はるかに　はるかに　はるかに　はるかに

新千　はるかなるとも
新続古　はるかなるとも
新拾遺　はるかなるとも
新拾遺　はるかなるとも
新拾遺　はるかなるとも
風　はるかなるとも
新拾遺　はるかなるとも

新千　いかにとしらぬあるかに
新続古　はるかなるとも
新拾遺　はるかなるとも
新拾遺　はるかなるとも
新拾遺　はるかなるとも
新拾遺　はるかなるとも
風　はるかなるとも
新拾遺　はるかなるとも
新拾遺　はるかなるとも
新拾遺　はるかなるとも
風　はるかなるとも
新拾遺　はるかなるとも
新拾遺　はるかなるとも
風　はるかなるとも
新拾遺　はるかなるとも

新拾千 友
新拾 五二
新拾 雜中
新拾 五四
新続古 三下
新続古 冬
新続古 五一
新続古 五二
新続古 五四
新続古 雜中
新続古 雜中
新続古 雜中

ほうそうこうのいんのおほんとのの
ほうそうこうのいんのおほんとのの
ほうそうこうのいんのおほんとのの
ほうそうこうのいんのおほんとのの
ほうそうこうのいんのおほんとのの
ほうそうこうのいんのおほんとのの
ほうそうこうのいんのおほんとのの
ほうそうこうのいんのおほんとのの
ほうそうこうのいんのおほんとのの
ほうそうこうのいんのおほんとのの
ほうそうこうのいんのおほんとのの
ほうそうこうのいんのおほんとのの

法皇御所 右兼明親王
源頼康
法中長綱
伏見院御製
皇太后宮大夫 俊成
前中納言 家
京大納言雅言
従位宣子
藤原門院 信西
後香園院 右兼明親王
後押小路 内大臣
永福門院 右衛門督

新拾 五一
新千 雜下
新続古 五二
新拾 五一
新拾 友
新千 五三
新拾 雜中
新続古 五三
新千 哀
新続古 五一
風 雜下
新拾 変

もろこしの方にも聞あはせまほしきことのはのうたにはかなくとはるる日のくれぬとてとはるるものかな
年にそへてこそふれはかこの日のくれぬとてとはるるものかな
ほうそうこうのいんのおほんとのの
ほうそうこうのいんのおほんとのの
ほうそうこうのいんのおほんとのの
ほうそうこうのいんのおほんとのの
ほうそうこうのいんのおほんとのの
ほうそうこうのいんのおほんとのの
ほうそうこうのいんのおほんとのの
ほうそうこうのいんのおほんとのの
ほうそうこうのいんのおほんとのの
ほうそうこうのいんのおほんとのの
ほうそうこうのいんのおほんとのの
ほうそうこうのいんのおほんとのの

道因法師
従三位成実
藤中納言雅
赤人
宣政門院
源義方朝臣
深草法皇
前大納言
後京極摂政 藤原良経
伏見院御製
法下定為

新拾遺 雜下
命てうなれはまれにしかあてしかの病ハ風まり
ほうしあるを世 如宣上人

風 雜下
世のうさにてこちのうしをいとはしまてを
ほうしきをを 東大寺宗吉

新拾遺 雜上
うつりし鄙のこゝろはなくてうあれはの日数の
ほうしみれ 二条院讃岐 宮吉

新拾遺 恋二
時毎ものをはなくしれみのうれんとも宿なき
ほうしをつ 後三位入道

風 冬
あつしまるのみちのぬさにはれる者の
ほうしをを 慶政上人

新千 夏
時るいはのやをれるん屋てしはるこをを
ほうしをを 光明峯寺入道前関白太政大臣

新千 雜上
時るしぬるとしなこわるやいくてくもの
ほうしをを 後三位入道内大臣

新拾遺 雜中
後の世の屋をとるるをよあはのくをを
ほうしをを 法下僧正

新拾遺 雜上
代屋のあるやはをを我身こそあはのまの
ほうしをを 校定四天王寺

風 夏
池水はしるをくを蓮葉の屋のををハの
ほうしをを 少僧都宗円

風 夏
いをしの野をはるみあとををてをふ大ハをふの
ほうしをを 京都法師

新千 雜上
今もなをしをわをなををはをやをしをあつの
ほうしをを 東大寺宗教

新千 夏
水のおもにとをのおもしいををしの川をまをなれの
ほうしをを 藻璧門院内侍

新拾遺 夏
池水はしるをくをれをやをしをの身をををいをを
ほうしをを 後京極摂政

風 雜上
あらきなくををハをのおーきをををををの世の
ほうしをを 東大寺武邦

風 夏
なをををやをををなをけをををくをを世ををけを
ほうしをを 校定四天王寺

新拾遺 秋下
はきあをを世ををををみを世の菊をををの井の
ほうしをを 城川中宮

風 雜上
をの秋ををををなををををををををををををの
ほうしをを 宮内卿師冬

新千 秋上
ををれをををををををををををををををををを
ほうしをを 仁和寺御製

新拾遺 秋上
いををの月をををををををををををををををを
ほうしをを 東大寺宗教

新拾遺 秋上
七夕のをををやをををををれをんをををををを
ほうしをを 東大寺宗鎮

新拾遺 秋上
あの月をの川やをををををををををををををを
ほうしをを 東大寺宗教

風 冬
七夕にををの月をの升いをををををををををを
ほうしをを 源師光

風 冬
冬ハををををををの風ををををををををををの
ほうしをを 校定四天王寺

新續古 五一
新拾 五上
風 新下

さてもまた夏にはいりぬるこゝろ葉にもてあそばれ
ほとゝぎす
池水にながれ、ゐたるあくとしやなれぬ
ほとゝぎす
おもしろやゐたる光陰のこゝろ暮れぬ時
ほとゝぎす

九十八そ

蔡信孝 別れた
素性法師
参議源公忠 男 改大た

新續古 五二
新續古 五二
新拾 哀
新續古 五六
新千 五六
新拾 五四
新續古 新上
新拾 五四
新拾 五四
風 友
新千 五四

おもふ新とうをにみつゝやゐたるあくとしの
つてそのつゝ
後拾遺 製
ゐたるなごりとうしまをまいらせ
つてそのつゝ
榮仁親王
五しまのもりぬるうらん家の
つてそのつゝ
出羽弁
あしたのまちくみて通ふ
つてそのつゝ
万秋門院 家
うれしかりけるあしたのこゝろ
つてそのつゝ
後三條天皇
命まつとをゝゐたるあしたの新みしゆき
つてそのつゝ
紫式部 院
世をうらみ方とうあるあしたの新
つてそのつゝ
定家卿 大た
いとわかつみにはるる新とうしらなくに
つてそのつゝ
後鳥羽天皇 大た
はるのあしたの新とうしらなくに
つてそのつゝ
大江忠秀
ゐたるあしたの新とうとのあさ
つてそのつゝ
本朝文粋 皇資
ゐたるあしたの新とうとのあさ
つてそのつゝ
三條院 製

新千離　おくれゐてなほさかりなるこいとかな　　俊成卿

新続古上　新風体力のかぎりをつくしたる花の色　　藤原定家朝臣

新続古上二　うちとけぬものをなにしのぶらん　　九条内大臣

新千尺　いとの糸にまとはるるものさりとてはなほ　　俊成卿

新千新上　はるかぜ実にわかなつみしはるかすみ　　藤原定家朝臣

新続古上　をしたなびくかぜやいもをわやすらん　　藤原俊成卿

新千尺　いまはてきくとはなくもとりかくれ　　藤原定家朝臣

新拾遺尺　をとわしのみねにいそのみとしたとさう　　藤原俊成卿

新続古上上　いにしへのをしのはちすにさかるみのを　　藤原定家朝臣

新拾遺新上　ゆめ出るをしうふかなしへをさこなきもよそをふる　　宗鏡禅師

新拾遺上　もとれわ孫なれはてさるこやもの秋の月し　　常光法師

新続古尺　あきはこさいしさこのなかのあれとくもへなるかな　　皇太后宮大夫俊成

新千新上　月をみしはるのかりはをとこ衣ゑしをしてよ　　法皇四製

新拾遺上　はるのみやまのうぐひすをとこ衣ゑしをしてく　　藤原定家朝臣

風新上　人しれぬ身をうんまるとしてはせにそもしやを花を　　藤原俊成卿

水六首

ご

風 新下 ごゝろなれ　源仲正

新続古 五一 うゝしなよ世をめぐりてたのむとて　中務宮宗尊親王

新拾 五三 ちぎりたがへぬくの露とそれてしを　源師光

新拾遺 新秋 あはれ　後鳥羽院

風 新下 ゆふぐれもおなじあきのかぜ　藤原光俊 ゆふ下

新続古 秋上 月けしきこゝろ　皇太后宮大夫俊成

風 友 まちもとめこゝろ　源頼実

風 新下 さく花のまちとはいつ　前中納言為家

新千 雜下 なにはのこゝろ　前中納言雅継

新千 雜 寒あれはおもひそたつ　基俊

新千 雜下 ゆふ　源師光

風 五二 ゆかなくさ　賀茂重保

新拾 雜中 ゆふ　俊成卿女

新続古 雜下 ゆふ　法印源意

新拾遺 雜ゆふ　源氏春

風 冬 ゆふ　進士親王

新続古 五三 ゆふ　宗尤法師

風 五二 ゆふ　藤原隆祐

新続古 雜下 ゆふ　後京極摂政

新拾 四季 ゆふ　前中納言為氏

新拾 五三 ゆふ　法印定為

新抜 新中
中三けさうなるに
ゝ
新抜 新上
一ゝ
風 ミ中
ゝ
風 新中
入日さしそめ
風 新中
ゝ
新千 冬
ゝ
新抜 広ミ
ゝ
新抜 広ミ
ゝ
新抜 新上
ゝ
新抜 広ミ
ゝ
新千 天
ゝ
風 友
ゝ

御製
宝治院殿
九十九
後子内親王
少将院
桜井中納言
西園寺入道
前大臣女
法下定家
貞信公
英俊卿
二条

新千 友
ゝ
新抜 友
ゝ
新抜 新ミ
ゝ
新抜 新上
ゝ
新抜 広ミ
ゝ
新抜 新中
ゝ
新千 天
ゝ
新抜 賀
ゝ
風 新ミ
ゝ
新抜 新下
ゝ
風 冬
ゝ
新抜 広ミ
ゝ

ゝ
ゝ
ゝ

新拾遺 冬　さよ〻ゆるうつてふかい川波のよこうくふく月と　醍醐入道太政大臣

新拾遺 旅　後にそしあふ秋ちれなる文シ〻移れる月と　按察使橘政基大臣

新続古 恋四　あわ〻夜乃芦新れこゑ月〻さ(ゆ)ゑくもりく　源義之朝臣

新千 恋二　りく〻川ちつとそのしゆ紅ちにおないか舟乃　鴨祐友

新千 恋四　みゝまにめくりしあそ消てふあ〻やゆ小舟　藤原為定

新千 恋四　うゝくなる実を中わ(ゝ)てゝくかゝりひろを　源孝朝

新千 恋四　我つわさくゝいよと志てゝ(ゝ)ゝもやゝけみゝく　按察使橘政基大臣

新千 春　めくりあふ秋てゝいとかゝしかゝれるをみゝ夜ハ　為好法師

新拾遺 恋四　ほ〻ゝ〻わ〻ゝ(ゝ)乃ゝいとゝゝしよゝ〻ゝ　大納言顕家

新拾遺 恋四　あ月と舟ゝれをゝ赤よみゝく海乃浦ゝわゝゝ　藤原定門院　但馬

新拾遺 恋四　さゝてゝみよ志ゝゝなゝ和を付る月ろとあゝハ　中納言為茂

新拾遺 恋四　月日ゝゝ〻ほ〻ゝ(ゝ)ほ〻ゝ〻ゝ赤ゝ〻ゝみゝ〻やゝ赤ゝ　後人不知

新拾遺 恋上　あき寄に成乃なゝゝゝけり赤ゝ赤ゝれてりそわし　後改大臣大

新続古 恋二　ゝ〻中ハ〻ゝ井ゝゝそのほ〻ゝ〻ゝ赤ゝゝゝやゝて　按香園院入道内大臣

新千 羇　あ〻ほ〻ゝゝわの中ゝゝて〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ　通盛右大臣

風 雜下　ゝ〻ゝ〻ゝゝゝゝれゝゝゝれゝゝゝて〻ゝ〻ゝ〻ゝ　菅原為長朝臣

新千 恋四　ゝ〻ゝ乃ゝ〻ゝゝれゝゝ乃ゝゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ　菅大納言為家

新拾遺 恋　ゝ〻ゝゝゝゝ

新後古 霧
夜とまのてこゝろをそらにあくがれ
ぬるあきの月いとくまなくさやけ
新後古 立四
なれどなほいとゞ物思ふ人のそ
でをかこちがほなるつゆかな
新後拾 友
ながめつるかぎりはあれどあかつき
の月にぞ物思ひまさりける
新千 立四
あかつきの月にぞ物思ひまさりけ
る
新後古 郭中
あかつきの月にぞ物思ひまさりけ
る
新後古 立二
さらぬだにつゆけきころの
あかつきの月にぞ物思ひまさりけ
る
新後拾 冬下
夜に入りてはげしくなれる
あらしにまがふ
新千 郭三
夜に入りてはげしくなれる
あらしにまがふ
新後古 立一
むもれ木の伊勢の神なるかぎりも
人をあはれとぞ思ふ
新後古 冬
袁宮にてこゝろをたてまつりし
ときよめるうた
新千 郭上
ものゝふの八十とものをの
ものゝふの
風 郭下
前みつ君をかぎりとおもふ
ごとのあはれ
紀國家
ごとのあはれ
枕草子
ごとのあはれ
後多院宰相典侍
ごとのあはれ
公能卿院家白氏家初句
ごとのあはれ
大江千里
ごとのあはれ
後鳥羽院家内大臣
ごとのあはれ
後光嚴院
ごとのあはれ
等持院贈左大臣
ごとのあはれ
大宰大弐重家
ごとのあはれ
後深草院内侍
ごとのあはれ
後醍醐院
ごとのあはれ
法輔朝臣

新千 尺
水の上にうかぶ月影をうつしてみ
るこゝろ
新千 秋上
秋の夜にとゞまりあへぬ人ごと
に
風 友
今ぞわが世にあるかひなきこゝ
ろ
風 尺
いとゞしくなほ思ひまさる人
の
新後拾 霧
たゞ一つのあはれをもとめて
新千 秋上
ものゝふの八十とものをの
風 冬
風しもこゝろ
新後古 郭中
我ぞあはれ人のなさけ
新後拾 秋下
もゝしきの大内山の月
新後拾 霧
ひく弓の引てはなたぬ
新後古 郭中
うせにしかたをこひてよめる
新千 立二
あふ事のなかなかのこゝろ
ぶかさ
ごとのあはれ
後鳥羽院御製
ごとのあはれ
行恒
ごとのあはれ
冷泉為秀朝臣
ごとのあはれ
後宇多院
ごとのあはれ
西行法師
ごとのあはれ
大納言師賢
ごとのあはれ
後京極為家卿
ごとのあはれ
冷泉院御製
ごとのあはれ
大宰大弐重家
ごとのあはれ
後嵯峨院御製
ごとのあはれ
白九大臣
ごとのあはれ
康光院今出川大政大臣
ごとのあはれ
菅中納言

新千 氣
風 ちはや
風 秋中
新千 友
風 ちはや
新後拾 羇
新後拾 ちはや
新後拾 冬
新千 離
新千 離
風 新上
新後拾 恋四

なりて立るあしたゝくる神
祭の袖をたゝけとみるかゝ
初しぐれ井の水に
時雨てあれ紫ぬるる
ぬるゝ山陰の
たつるや都をいそぐ
花ちるかゝなにゝ
もれやとる日数の月
ゆくゝ
いさこゝ
ねしもとゝ
さはるゝ

ごまのはを 稚内の雄
ごまのはを 大宰大貳重家
ごまのはを 後鳥羽院
ごまのはを 院御製
ごまのはを 東大門院宰相
ごまのはを 慈覚法師
ごまのはを 慈恵僧正
ごまのはを 法性寺
ごまのはを 観覚法師
ごまのはを 法橋羽院
ごまのはを 三善頼秀

新拾 恋三
風 天
新後拾 離三
新千 恋三
新千 秋上
新拾 氣
新千 友
新拾 友
新拾 友
新拾 友
新拾 友
新拾 離去

あさゝ
我ゝ
ぬ
ぬ
いつ
なる
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ

ごとあ
ごけ
ごと
ごと
ごと
ごと
ごと
ごふ
ごふ
ごふ
ごふ
ごふ
ごふ

躬恒
今二条親
藤原清輔
慈恵僧正
藤原雅経
大納言経信
俊成卿
藤原盛房
藤原定家
藤原為家
藤原資康
法下宗信

新後拾 雜三
山のこなたの月ぞすさまじき
ふけるかな　法皇

新後拾 夏
山ひけばすきまもわみしそのなつこの川よ
ふるかな　藤原為家

新後拾 夏
おもかげにうつるばかりぞ見なれぬる
みつのはまちの夏の月かな　源光行

新後拾 雜上
うれしさをかたみにかはす月水に
新しきまでこそすめ　藤原為家

同 述
夜もすがらあかしかねぬる
ふるのあさ　僧圓祐師

新後拾 夏
いなづまのかげとにとまる月ぞ
やどりて　藤原俊成

新後拾 恋一
人をこそ思ひ出でけれ
ぬらすまで　中園入道前太政大臣

新後拾 恋四
みるかさねぬるあしたの
ぬれぎぬ　權大納言為世

新後拾 恋四
とはばやとかりにかりねの
ぬれぎぬ　藤中納言為秀

同 秋中
月ぞ見むこよひばかりの
ふるさとに　藤中納言定家

新千 雜上
うれしさをかたみにかはす
ふるかな　藤中納言実氏

新後拾 秋上
まつ秋くるとしをかさねて
ふるかな　法皇長講

新千 雜下
いそのかみ山のかなたにすむ
ふるの鶴　右大臣女

同 冬中
けさこそはかぜにこそふる
ふるの雪　藤原為氏

新後拾 雜
雲ぬるるあまのかるもの
ふるの雪　源仲正

新後拾 冬
入江なるあしのかれはの
ふるの雪　法印圓勝

新後拾 恋三
言ふばかりなみだ堂にこもりて
ふるの雪　寂蓮法師

同 雜上
ぬれぬれぬ我やはいかなる
ふるの雪　藤原為氏卿

神 同
袋なる小法師ばかりぬれぬ
ふるの雪　權大納言為雄

新千 雜上
梅ぬれぬ春のあまつ雲
ふるの雪　日野資朝卿 御子

新千 恋四
まもるべき神のなかにぬれぬ
ふるの雪　中務卿宮尊良親王

新後拾 雜上
まもる風のなかにやなりぬ
ふるの雪　藤中納言為尋

新後拾 雜上
梅のかをこそ
ふるの雪　侍従為親

新後拾 雜上
梅のかをこそ
ふるの雪　藤大納言為氏

新続冬　みよしの山ちかくしらぬ雪のあさぼらけ　ごふじゅん　法下顕詮

新続五二　しらいとのはつはるのうぐひすなくなり　ごふじゅん　為家長秀

新続夏　たがこゑとおもひわかぬ郭公ありそのうへに　ごふじゅん　藤原為氏

新続五一　たちくるもたちふる神のたてこもる　ごふじゅん　信実朝臣

新続尺　みかりのあらしにたちまがふ雪のあけぼの　ごふじゅん　宗尊親王

新千三下　夜のあらしにまがふ雪のあけぼの　ごふじゅん　為家卿

新続新下　山ぢのあらしにまがふ雪のあけぼの　ごふじゅん　源詮政

新続部　ちぢのあらしにまがふ雪のあけぼの　ごふじゅん　為家卿

新続羇　行くすゑ一夜ばかりの旅の宿　ごふじゅん　法下顕詮

同友　ちぢのあらしにまがふ雪のあけぼの　ごふじゅん　法印頼親

同新上　うねめのみ離れて遠き茅ぶきの　ごふじゅん　為家卿

新続秋下　秋風の神やもとをとしくれぬ　ごふじゅん　後鳥羽院御製

新続秋　大井河せにたくなみなれてくだけて月の玉かづら　ごふじゅん　法下顕詮

新千秋下　ゆくへの方を井堰のあはの流れ　ごふじゅん　三條入道内大臣親忠

新続尺　ちぢのあらしにまがふ雪のあけぼの　ごふじゅん　為家卿

新続五六　おもひかねちぢのあらしにまがふ雪　ごふじゅん　為家卿

新続秋上　あはれ秋月やはらぬ風ぞ　ごふじゅん　後鳥羽院御製

新続五二　ようかの井堰のあはの流れ　ごふじゅん　藤原為家女

新続秋上　あはれ秋月やはらぬ風ぞ　ごふじゅん　法下顕詮

新続五三　あはれ秋月やはらぬ風ぞ　ごふじゅん　後一條宣子

同秋中　ちぢのあらしにまがふ雪のあけぼの　ごふじゅん　東院御製

同新三　ちぢのあらしにまがふ雪のあけぼの　ごふじゅん　前内大臣

ごふじゅん　奥院上人

新千 雅上
新続古 五二
新拾 夏
風 雅下
新続古 雅下
新拾 夏
新拾 雅秋
風 雅中
風 五一
新拾 夏
新千 雅下

おくらのいと松の枝にけさはやとみとりも
ぶれる雪の花
佐井よりのくらやうつもるあとのあと
雪の間の笑
あやめまたふてうけとりたる神をあ
ぶる
春皇ふかてふ枝をうたくらしれ人
ぶる
ふとたいてあれしもといつるしたよれ
ぶる
うれ身とふかてそ三代まてとたしもし
ぶるあいわ
中務卿宗尊親王
あくしに月をまてれ時の空月をあの
ぶるとうくし
英四方の民
ぬしの松をそうをくあめ
ぶるをうく
英四方の歌
うくしのいろあ松の月のくさ
ぶるまま
延人丸
かくもあるとふ月をあるやとあの
ぶるもみさ
英大四方の歌
世中のつ松とくに松の風のいりのはる
ぶるしき
素性法師
ぶるかしき
永徳院
ぶるかしき
永徳院

新続古 雅中
新千 夏
新千 雅下
新千 雅中
風 雅中
新拾 雅上
風 五六
新続古 雅上
新千 雅上
新拾 冬
新拾 五四
新拾 雅上

小山田の松のこすえにかかる
ぶる
基房公
雪あいろやまもしみらの松
ぶるとも
多武峯少将雪
大政大臣
ぶるまつり
少将内侍
ぶるまつ
行法内親
ぶるのうら
後鳥羽院下野
きの月もつてあ
ぶるやとの
藤原為家
月の夜まてはかりあ
ぶるかれい
永徳院
ぶるとあ
源仁法内親
ぶるとあ
平高宗
数すくしかとあ
ぶるとあ
平政村朝臣
住吉の松りまれ
ぶるかい
人丸
まてるあ
ぶるし
人丸
ひりとの松とうあ
ぶるあ
祝子忠成

新後撰 冬
何とうたがひのいとにはなれたてれいてそ
うぐいすは 竹内式部雅
新拾遺 恋四
きれ国のあらはるとしれ貝我かなしれ
うぐいすも 不知
新拾遺 神
あはれやあ人神もこれを寄せ木のもの
うぐ(ひす)を 三条公忠朝臣
新後拾遺 神
ゆき君代のあめ雨やこちらてて一枝はれ
うぐいすを(ひす) 源直氏
新後撰 上
ゆきのこしの雪の中に
うぐいすを(ひす)て 前大納言実名
風 雅下
ゆきとうたがひしあまりに
うぐいすを(ひす) 前内大臣雅孝
風 恋一
ふかくとなりぬ
うぐいす(ひす)の 参議実浦朝
新千 恋二
いかにこいらはれてしてれなれ
うぐいす(ひす)の 法院の御歌
新千 恋二
ちぎりなれ
うぐいす(ひす)の 人丸
新千 雜中
ちはやふる神代の契りなれとしけ
うぐいす(ひす)の 後光明照院
新拾遺 恋一
人をしれなくこれのこの
うぐいす(ひす)の 平内氏
新拾遺 恋二
あはれとうけ玉ぬ
うぐいす(ひす)の 後崇光院

新拾遺 恋四
あはれとうけ玉ぬ
うぐいす(ひす)の 後崇光院
新拾遺 雜中
ちはやふる神代の契りなれとしけ
うぐいす(ひす)の 法下禅院
新千 冬
ちはやふる
うぐいす(ひす)の 法下禅院
風 恋五
ちはやふる神代の
うぐいす(ひす)の 前大納言民
新千 雜上
ちはやふる神代の
うぐいす(ひす)の 近衛前内大臣
風 雜下
ちはやふる神代の
うぐいす(ひす)の 後鳥羽院
新千 恋二
ちはやふる
うぐいす(ひす)の 後鳥羽院
新拾遺 雜下
ちはやふる神代の
うぐいす(ひす)の 源実氏
新拾遺 恋一
ちはやふる神代の
うぐいす(ひす)の 入道二条親忠
新拾遺 恋上
ちはやふる神代の
うぐいす(ひす)の 正三位坊寛
新後拾遺 恋
ちはやふる神代の
うぐいす(ひす)の 竹林院入道
風 冬
ちはやふる神代の
うぐいす(ひす)の 後竹林院入道

風 新上
身はうへ流る月日としてつたもおもてそぬ　うゑ若うる　業平侍従雅

風 新三
をとなる数我身にてまわてやくしをろ　うゑ若うる　業平侍従雅

新千 新上
あら秋の花は数はいと花は我身を思　うゑ若うる　紀貫之

新続古 冬
色きにいろいろ数はなきにこそ　うゑ若うる　今出川院 西園寺実兼

新続古 冬
今宵はいとふなるおいてくるわをき　うゑ若うる　太政大臣

新続古 秋
ちるこの月日はいとふるとさきを　うゑ若うる　宴曲院殿 太政大臣

新続古 秋
うれ身まてはいとふるかるをよ色く　うゑ若うる　松殿入道 実基

新続古 冬
いろ色さきはそもとうの身はくるか　うゑ若うる　伏見院 御製

新続古 冬
世はうへ思いくはなはめなれはうを思とみてや　うゑ若うる　二条院親王 光明

新続古 新上
かとらくるさめなるはといるのれはまもあ　うゑ若うる　中務

風 新下
つ秋のもはをもくるへはくるくれ　うゑ若うる　吹理定頼卿

新続古 新中
いくるはんはをこ心はの川はなれ我をく　うゑ若うる　亀山院御製

新千 秋
一夜はの代はをこはをもまもてそぬ　うゑ若うる　宗尊親王

風 新下
なを多へをこはふうるなをあとをもあ　うゑ若うる　西行法師

新続古 恋三
いはのとをそしの事はいはもしをれ　うゑ若うる　業平朝臣雅孝

新千 新上
いさをふはの日はの代はをこ　うゑ若うる　後鳥羽院御

新続古 恋四
あれはてをはの代はをこ　うゑ若うる　後鳥羽院

新続古 離
はをもはをもはをこ　うゑ若うる　後鳥羽院

新続古 新上
はをはをこ　うゑ若うる　後鳥羽院

新千 秋下
ちをよきくきはをこ　うゑ若うる　万代和歌集

新続古 旅
業平はをはをこ　うゑ若うる　[illegible]

新続古 新上
さしをはをはをこ　うゑ若うる　[illegible]

風 新中
ま少へはいはなへはをはをこ　うゑ若うる　坂東長代

新続古 恋
多へはをはをこ　うゑ若うる　[illegible]

新拾
新千冬
新千新上
新千雪
新拾新上
新拾新秋
新続古新秋
新続古冬
新千秋下
新千新下
新拾夏
風新ミ

とゝめえに屋てゝ
なしけるの
新後撰
新千冬
新千新上
新千雪
新拾新上
新拾新秋
新続古新秋
新続古冬
新千秋下
新千新下
新拾夏
風新ミ

ゆ
ゆ
ゆ
ゆ
ゆ
ゆ
ゆ
ゆ
ゆ
ゆ
ゆ
ゆ